

2022 年度「授業評価アンケート」について

本学では授業改善・教育力向上に向け、授業評価アンケートの実施に取り組んでおります。授業評価アンケートは、授業到達目標の達成度（学修成果）を基準にして、学生・教員双方が評価することで、授業の課題・改善点を明確にすることを目的としております。また、中間アンケートを実施することで、授業の課題・改善点を浮き彫りにし後半の授業に反映させることで、学生の授業への参加意識を高め、授業到達目標の達成度を高めるねらいがあります。

2020 年度は新型コロナウイルス感染症の蔓延により、オンライン授業を実施しました。そのために、アンケートもオンライン授業アンケートとして形を変えて実施し、個々の授業ではなく、オンライン授業全般の学生評価とその分析検証という形式をとりました。2021 年度は、感染状況に配慮しつつオンライン授業と対面授業とを併用しました。よって授業評価アンケートも質問項目をオンライン授業と対面授業に分けて実施いたしました。残念ながら、2020 年度 2021 年度ともに、コロナ禍により中間アンケートの実施は見送りました。2022 年度は、コロナ禍にありながらも、感染対策を行いながら対面授業を実施し、従来通り、中間アンケート、授業評価アンケートを実施いたしました。

なお、各教員による授業評価アンケート結果に基づく「授業評価アンケート報告書」の作成には時間を十分にかけ、学修成果と関連付けた多角的な検討を行っています。結果は 本学ホームページで公開しております。教員と学生が学修成果の達成という同じ目標を見つめ、その目標達成に向かって授業をつくりだしていく一助となれば幸いです。

FD・SD 委員長 工藤 真由美

1 学生による「授業評価アンケートの結果閲覧と報告書作成のお願い」

《前期・後期》

2 「授業評価アンケート報告書」2021 年度前期・後期

《保育学科→ライフデザイン総合学科、常勤→非常勤教員の順》



令和 4 年 5 月吉日

各 位

四條畷学園短期大学
教学委員長 工藤真由美

学生による「授業評価アンケート」の実施について

平素より本学の教育・学生指導にご尽力賜り、心より厚く御礼申し上げます。
本学では授業改善・教育力向上に向け、授業評価アンケートの実施に取り組んでおり、
今年度の実施をお願いする次第です。

授業評価アンケートは、授業到達目標の達成度（学修成果）を基準にして、学生・教員双方が評価することで、授業の課題・改善点を明確にすることを目的としております。また、中間アンケートを実施することで、授業の課題・改善点を浮き彫りにし後半の授業に反映させることで、学生の授業への参加意識を高め、授業到達目標の達成度を高めるねらいがあります。

なお、授業評価アンケート結果に基づく「授業評価アンケート報告書」のご作成と、
本学ホームページでの公開も予定しております。あらかじめご了承ください。

何卒趣旨ご理解の上、ご協力賜りますよう、よろしくお願ひいたします。なお詳細・
日程につきましては、別紙『授業評価アンケート実施要領』をご覧ください。

令和4年5月吉日

授業評価アンケート実施要領

教学委員会

ねらい

- 学生の満足度による授業評価ではなく、授業の到達目標の達成度（学修成果）を基準に学生・授業担当者双方が評価することで、授業の課題・改善点を明確にする
- 中間アンケートの導入により、学生の授業への参加意識を高める

授業評価アンケート 実施対象

- 専任教員： 担当授業科目のうち 任意の2科目（又は同一科目2クラスでも可）
非常勤教員： 担当授業科目のうち 任意の1科目=1クラス
※注 複数の授業担当者が15回授業の途中で交代するオムニバス授業は、中間アンケートの結果が反映されないので授業評価アンケートの対象から除外

実施スケジュール

4/6～	授業1回目～	授業の到達目標の周知 <ul style="list-style-type: none">・シラバス記載の到達目標（授業終了段階で、学生にできるようになってほしい事柄）を学生に明確に示す
5/23～ 6/4	授業8回目頃	授業評価「中間アンケート」の実施 ★1 <ol style="list-style-type: none">1. アンケート用紙を授業担当者が学生に配布（事務室で必要枚数を受け取って下さい）2. 学生が回答した用紙を授業担当者が回収3. 翌回、学生の意見・要望等をフィードバック、授業改善に活用する <p>* 教学委員会に提出は不要です</p>
7/4～ 7/19	授業14～15回目	授業評価アンケートの実施 ★2 <ul style="list-style-type: none">・学生がユニバにログイン、回答する・アンケート集計結果の閲覧期間 <u>7/20～8/31</u> *システム上、学生は結果を閲覧できません
8/24 〆切	成績評価後	授業評価アンケート報告書の提出 ★3 <ul style="list-style-type: none">・授業担当者がユニバにログイン、回答する

★1～3 時期が近づきましたら、ユニバ配信でお知らせする予定です

《中間アンケート》

- 問1 この授業の良い点を具体的に述べて下さい。
- 問2 この授業について改善してほしい点を具体的に述べて下さい。
- 問3 あなたは、授業中の分からないことや不明な点を質問したり調べたりしましたか。
1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまり思わない 4. そう思わない

《最終アンケート》

- 問1 中間アンケートで出された学生の意見、要望に対する取り組みは見られましたか。
1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまり思わない 4. そう思わない
- 問2 この授業は、積極的な参加を促すための工夫（質疑応答、課題の発表、グループワーク、コメントペーパーなど）がされていましたか。
1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまり思わない 4. そう思わない
- 問3 この授業の予習・復習および課題に当てた時間は、1週間でどのくらいですか。
1. 2時間以上 2. 1～2時間 3. 30分～1時間 4. 30分未満
- 問4 この授業のシラバスに示されている到達目標をどの程度達成できたと思いますか。
1. ほとんど達成できた（90～100%） 2. Bかなり達成できた 80～89%
3. 少し達成できた（70～79%） 4. あまり達成できなかつた（60～69%）
5. ほとんど達成できなかつた（59%以下）

《授業評価アンケート報告書》

（各欄 300字以内）

- 問1 この科目（クラス）を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。
- 問2 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。
- 問3 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい（今後の課題も含む）。



令和4年10月吉日

各 位

四條畷学園短期大学
教学委員長 工藤真由美

学生による「授業評価アンケート」の実施について

平素より本学の教育・学生指導にご尽力賜り、心より厚く御礼申し上げます。
本学では授業改善・教育力向上に向け、授業評価アンケートの実施に取り組んでおり、
今年度の実施をお願いする次第です。

授業評価アンケートは、授業到達目標の達成度（学修成果）を基準にして、学生・教員双方が評価することで、授業の課題・改善点を明確にすることを目的としております。また、中間アンケートを実施することで、授業の課題・改善点を浮き彫りにし後半の授業に反映させてことで、学生の授業への参加意識を高め、授業到達目標の達成度を高めるねらいがあります。

なお、授業評価アンケート結果に基づく「授業評価アンケート報告書」のご作成と、
本学ホームページでの公開も予定しております。あらかじめご了承ください。

何卒趣旨ご理解の上、ご協力賜りますよう、よろしくお願ひいたします。なお詳細・
日程につきましては、別紙『授業評価アンケート実施要領』をご覧ください。

令和4年10月吉日

授業評価アンケート実施要領

教学委員会

ねらい

○学生の満足度による授業評価ではなく、授業の到達目標の達成度（学修成果）を基準に

学生・授業担当者双方が評価することで、授業の課題・改善点を明確にする

○中間アンケートの導入により、学生の授業への参加意識を高める

授業評価アンケート 実施対象

専任教員： 担当授業科目のうち 任意の2科目（又は同一科目2クラスでも可）

非常勤教員： 担当授業科目のうち 任意の1科目=1クラス

※注 複数の授業担当者が15回授業の途中で交代するオムニバス授業は、中間アンケートの結果
が反映されないので授業評価アンケートの対象から除外

実施スケジュール

授業1回目～

授業の到達目標の周知

- ・シラバス記載の到達目標（授業終了段階で、学生にできるようになってほしい事柄）を学生に明確に示す

10/24～11/4頃

授業評価「中間アンケート」の実施 ★1

授業8回目頃

1. アンケート用紙を授業担当者が学生に配布

（事務室で必要枚数を受け取って下さい）

2. 学生が回答した用紙を授業担当者が回収

*教学委員会に提出は不要です

3. 翌回、学生の意見・要望等をフィードバック、
授業改善に活用する

12/14～

授業評価アンケートの実施 ★2

授業14～15回目

・学生がユニバにログイン、回答する

・アンケート集計結果の閲覧期間

1/17(火)～2/28(火)

*システム上、学生は結果を閲覧できません

2/19(日)

成績評価後

授業評価アンケート報告書の提出 ★3

〆切

・授業担当者がユニバにログイン、回答する

★1～3 時期が近づきましたら、ユニバ配信でお知らせする予定です

★ 1

«中間アンケート»

- 問1 この授業の良い点を具体的に述べて下さい。
- 問2 この授業について改善してほしい点を具体的に述べて下さい。
- 問3 あなたは、授業中の分からないことや不明な点を質問したり調べたりしましたか。
1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまり思わない 4. そう思わない

★ 2

«授業評価アンケート»

- 問1 中間アンケートで出された学生の意見、要望に対する取り組みは見られましたか。
1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまり思わない 4. そう思わない
- 問2 この授業は、積極的な参加を促すための工夫（質疑応答、課題の発表、グループワーク、コメントペーパーなど）がされていましたか。
1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまり思わない 4. そう思わない
- 問3 この授業の予習・復習および課題に当てた時間は、1週間でどのくらいですか。
1. 2時間以上 2. 1～2時間 3. 30分～1時間 4. 30分未満
- 問4 この授業のシラバスに示されている到達目標をどの程度達成できたと思いますか。
1. ほとんど達成できた（90～100%） 2. Bかなり達成できた 80～89%
3. 少し達成できた（70～79%） 4. あまり達成できなかった（60～69%）
5. ほとんど達成できなかった（59%以下）

★ 3

«授業評価アンケート報告書»

（各欄 300字以内）

- 問1 この科目（クラス）を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。
- 問2 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。
- 問3 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい（今後の課題も含む）。



授業評価
アンケート

* * * 授業評価アンケート（中間アンケート）* * *

このアンケートは、履修生の学修成果を上げるため、授業をより良くする目的で実施するものです。記述内容は成績評価に関係しません。

問1 この授業の良い点を具体的に述べて下さい。

問2 この授業について改善してほしい点を具体的に述べて下さい。

問3 あなたは、授業中の分からないことや不明な点を質問したり調べたりしましたか。（あてはまるもの一つにつけて下さい）

1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまり思わない 4. そう思わない

2022年度前期 「授業評価アンケート」報告書

教職員氏名	科目名	1. この科目（クラス）を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。	2. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	3. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
保 合田 誠	社会福祉	「卒業必修」であり、保育士資格の原理的授業内容のため。また、学生がこの授業に対してどの様に評価しているかを確認したかったためです。	パワーポイントのスライドをすすめるのが早いとの指摘があったので、可能な限り、学生に進捗状況を声かけしながらすすめた。また、どうしても限られた時間内に多くのことを伝える必要があるため、授業の途中くらいから早口になってしまふとの指摘もあり、関係する派生した話題を極力避けて、授業をすすめた。	原理系の科目であるため、限られた時間内に多くの専門的事項を享受する関係で、達成状況は「少し達成できた」が51%となっており、今後もう少し、達成レベルを向上させるための授業工夫が必要になる。
	社会福祉	「卒業必修」であり、保育士資格の原理的授業内容のため。また、学生がこの授業に対してどの様に評価しているかを確認したかったためです。	パワーポイントのスライドをすすめるのが早いとの指摘があったので、可能な限り、学生に進捗状況を声かけしながらすすめた。また、どうしても限られた時間内に多くのことを伝える必要があるため、授業の途中くらいから早口になてしまふとの指摘もあり、関係する派生した話題を極力避けて、授業をすすめた。	問2の積極的な授業参加を促す工夫に関して、「あまり思わない」と回答したのが33%になっていたことに驚いた。講義系の授業のため、課題発表やグループワークは行っていない。ただ、コメントペーパーは求めなかったので、逆に学生はそこを望んでいたかも知れない。今後の参考にしたい。やはり、達成目標については達成度合いが「少し達成できた」が38%となっており、保育士を目指す学生にとって、今後の達成度合いを上げる授業工夫をしていかねばならない。
保 長谷 秀揮	幼児と健康	これまで、この科目を授業評価アンケートの対象に選んだことが無かったということが、主な理由であるといえる。また、授業テキストを、これまで数年間使っていたものから、最新版のテキストに変更したことも理由の一つである。	中間アンケートでは、授業に関して「特になし」との回答が、大多数という結果であった。しかし授業の進め方について、少し速いとの意見が若干あったのでテキストの要点の解説をはじめ、パワーポイントや配布資料の説明等を進めていくスピードをベースダウンし、ノートする為の時間等を長めにして確実に要点を書き留めることができるように工夫・改善した。	アンケートの回答によると、シラバスの到達目標の達成状況については、「ほとんど達成できた」が2%、「かなり達成できた」が26%、そして「少しあは達成できた」が47%という結果であり、一定程度は達成できたと考えられる。しかし、「あまり達成できなかった」と、「ほとんど達成できなかった」が合わせて25%という結果については、今後の課題として捉えることができる。授業内容・方法の吟味、及び工夫改善に継続的に取り組み、授業の質の向上を図り、受講学生の満足度をより高めていくように努めたい。
	幼児と健康	これまで、この科目を授業評価アンケートの対象に選んだことが無かったということが、主な理由であるといえる。また、授業テキストを、これまで数年間使っていたものから、最新版のテキストに変更したことも理由の一つである。	中間アンケートでは、授業に関して「特になし」との回答がほとんどという結果であった。しかし授業の進め方について、少し速いとの意見が若干あったのでテキストの要点の解説をはじめ、パワーポイントや配布資料の説明等を進めていくスピードをベースダウンし、ノートする為の時間等を長めにして確実に要点を書き留めることができるように工夫・改善した。	アンケートの回答によると、シラバスの到達目標の達成状況については、「ほとんど達成できた」が7%、「かなり達成できた」が29%、そして「少しあは達成できた」が50%という結果であり、一定程度は達成できたと考えられる。しかし、「あまり達成できなかった」と、「ほとんど達成できなかった」が合わせて14%という結果については今後の課題として捉えることができる。受講学生の満足度をさらに高めることができるように、授業内容・方法の吟味、及び工夫改善に継続的に取り組み、授業の質の向上に努めたい。

教職員氏名	科目名	1. この科目（クラス）を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。	2. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	3. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
保 山田 秀江	幼児と人間関係	今年度より、幼児と人間関係が前期科目に変更になり、一年生の状況を把握するため	書き込み式の配布プリントが文字が小さく見づらいという意見があつたので、配布プリントを見やすく、書きやすいものに変更した。	ほとんど達成できた、かなり達成できた、少し達成できたの回答が81%であり、成績70点以上が72%であった。概ね達成できたと思われる。また、積極的な参加を促すための工夫に関して、そう思うが30%、ややそう思うが59%であり、そう思わないが2%であった。これらを受けて、学生の積極的な参加を促すための授業の工夫を検討し、改善したい。
	幼児と人間関係	クラス間の比較のため	他のクラスと同様、書き込み式の配布プリントが文字が小さく見づらいという意見があつたので、配布プリントを見やすく、書きやすいものに変更した。	ほとんど達成できた、かなり達成できた、少し達成できたの回答が87%であり、成績70点以上が73%であった。概ね達成できたと思われるが、学生の自己評価と実際の成績の間に14%の差がある。またこちらのクラスは予習復習に当てた時間に関して30分未満が91%となっている。そこで、学生の自己評価と実際の成績評価の乖離をなくし、達成状況が向上するよう、予習復習の方法を模索する。また、学生へのフィードバックの方法も改善したい。
保 阪野 学	子ども家庭支援論	もう一つのコマの授業より回答率が高く受講者が68人と多く、クラスも1組から6組全クラスに涉っており多くの学生の意見が反映されていると云うことと、レポート試験の結果不合格の学生の割合が25%と高く分析しておく必要を感じたため。	今回から学生が提出した振り返りシートを応え合わせさせて間違えている個所を直して再提出させた。学生の中に毎回の授業の振り返りシートの提出が負担であるとの回答がみられたが、本科目は2単位であり文科省で定める学外学修時間を毎週4時間必要とする。アンケートには、30分未満が14人、30分～1時間が20人、1～2時間10人、2時間以上5人とあり5/49(約10%)の学生が2時間を超えていたが後の約90%は2時間以内に収まっており振り返りシートの作成に要する時間については適切であると判断することができる。その他、パーカーポイントの見やすさ、後半時間が無くなり授業が駆け足になる、マイクの音量などについて配慮して改善に努めた。	上記のとおり振り返りシートの提出及び再提出をさせ学生の学びを深めさせると同時に学生の学外学修時間の確保することができた。そして、75%の学生が合格した。1/4の学生が60点に到達せず再試験を受ける結果となった。評価の平均点は70.7点であった。最終的には再試験の結果から判断しなければいけないが、おそらく2～3名を除いて再試験での合格が見込まれる。従ってシラバスの到達目標の達成はできたと判断することができる。今後の課題としては、学外学修時間の確保について繰り返し学生に説明するとともに毎回の振り返りシートにおいて学生の要望を聞き改善に努めていきたい。
	社会的養護 II	3つのコマの中で一番回答率が高く学生の意見が反映されていると判断したため。また、レポート試験の結果不合格者が全体の33%と高く分析しておく必要を感じたため。	今回から学生に提出させた振り返りシートを学生に答え合わせをさせ間違っている個所を修正して再提出させた。学生の中に毎回の授業の振り返りシートの提出が負担であるとの回答がみられたが、本科目は1単位のため文科省で定める学外学修時間を毎週1時間必要とする。アンケートには、30分未満が7人、30分～1時間が11人、1～2時間7人、2時間以上0人である。18/33(約55%)の学生が1時間以内、1時間を超える学生は7/33(28%)となっており、1時間を超える学生が1/4以上居るため今後改善していく必要があると考える。その他、パーカーポイントの見やすさ、後半時間が無くなり授業が駆け足になる、マイクの音量などについては改善に努めた。	上記のとおり振り返りシートの提出及び再提出をさせ学生の学びを深めさせると同時に学生の学外学修時間の確保することができた。そして、67%の学生が合格した。1/3の学生が60点に到達せず再試験を受ける結果となった。評価の平均点は63点であった。最終的には再試験のから判断しなければいけないが、おそらくほとんどの学生が再試験での合格が見込まれる。従ってシラバスの到達目標の達成は概ねできたと判断することができる。今後の課題としては、学外学修時間の確保について繰り返し学生に説明するとともに今回の振り返りシートの作成にかかる時間から勘案して負担の軽減を行い、併せて毎回の課題シートにおいて学生の要望を聞き改善に努めていきたい。

	教職員氏名	科目名	1. この科目（クラス）を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。	2. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	3. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
保 木村 美佳	子どもの健康と安全	3限続きの最初の授業	中間アンケートでできていなかった、学生同士のコミュニケーションが後半は取れるようになってきた。グループでの活動を増やし、演習の授業を多く取り入れていき、活動を共にすることで、学生同士のコミュニケーションが取れるように工夫した。	あまり達成できなかつたと回答した学生は一人だけだったが、一人いたため、今後はさらにリフレクションシートを使用した支援を行っていきたいと思う。	
		3限続きの最後の授業	中間アンケートでできていなかった、学生同士のコミュニケーションが後半は取れるようになってきた。グループでの活動を増やし、演習の授業を多く取り入れていき、活動を共にすることで、学生同士のコミュニケーションが取れるように工夫した。	このクラスでは「達成できなかつた」という意見の学生は一人もおらず、3限目の効率や授業展開を行う余裕があるかと思われる。しかし1限目にするクラスとの差が生じないためにも、この授業と同じように1限目も授業展開の効率性や、個々の学生に合わせた授業を展開できるよう、リフレクションシートを通して学修の支えを行っていきたいと思っている。	
保 金川 朋子	特別支援教育総論Ⅰ	担任クラスを含む科目(1, 2組)を選んだ。	プリントに記入しやすいように、提示用PPの見え方を確認、工夫した。個別の発表が苦手との意見もあったが、人前で発言することは、必ず必要であることを授業内でも説明し、行った。また、発言機会については、事前に指定し、発言するための準備の時間を設けた。	予習復習する時間について、63%が30分未満との回答、1時間未満25%、という結果から、繰り返し復習する機会を設ける必要があると感じた。前期は、小テストをおおよそ5コマごとに行い、復習をする機会を作った。シラバス達成目標についても、あまり達成できなかつた9%、ほとんど達成できなかつた3%という結果も踏まえ、前期試験の解答状況を確認し、後期授業においても復習しながら、後期の授業を進めていきたいと考える。	
	スポーツ1	担任クラスを含む科目(1, 2組)を選んだ。	暑さ(体育館に冷房がない)、移動の大変さなどの、学生からの意見があった。暑さ対策について、熱中症予防も含めて、配慮し実施した。第13回目は、清風学舎で授業を行つた。	予習復習の時間については、64%が1時間未満という結果であった。授業後の振り返りプリントの記入を行っているが、実技の場合は、実技のみでなくその振り返りをしっかりと行う必要があると考える。そのための工夫を検討していきたい。シラバスの到達目標については、95%が少し達成できた、かなり達成できた、ほとんど達成できたと回答している。多くの学生が主体的に授業に取り組んでいた。今後も、学生が積極的に学べる工夫を継続していきたい。	
保 鍛治谷 静	発達心理学 (1・2・3組)	同科目別クラスと教室の規模が異なり授業中の雰囲気にも差があるように感じ、学修成果の達成状況に影響があるかどうか確かめたかったため。	グループワーク希望が数人から出たが、この科目的目的を伝え理解を図った。早すぎるという進度についての要望には、学生の反応をこまめに確認しながらペースを調整した。	期末の筆記試験の結果と学生の自己評価にギャップはなく、授業内容を概ね理解できていた。スライドやプリントが分かりやすい、DVD視聴が勉強になったとの声を励みに、来期もさらに提供資料の精選・充実に努め、学生の自学自習を促したいと思う。	
	発達心理学 (4・5・6組)	同科目別クラスと教室の規模が異なり授業中の雰囲気にも差があるように感じ、学修成果の達成状況に影響があるかどうか確かめたかったため。	縦に長い教室で、後方からスライドの文字が見にくとの声があった。背景とのコントラストや文字の大きさを変更し、対応した。	縦に長く、最前列から最後列までぎっしり席が埋まっている教室で不利に思える環境だったが、学生の受講態度は熱心で達成状況にも差が見られなかつたので安堵した。スライドやプリントが分かりやすい、DVD視聴が勉強になったとの声を励みに、来期もさらに提供資料の精選・充実に努め、学生の自学自習を促したいと思う。	

	教職員氏名	科目名	1. この科目（クラス）を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。	2. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	3. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
保 香月 欣浩		幼児と図工 I	中間アンケートを実施した授業のため	学生のアンケートから充実していることを把握できたため、学びがより深まっていくように積極的な参加を促すための工夫つまり質疑応答、課題の発表、グループワーク、コメントペーパーなどを行なった。特に学生全員の毎回の振り返りシートにコメントをして返却する振り返りシートによって、学生の学び、気づき、状態、成果に対する判断を伝え次回の意欲につながるように心掛けた。	復習として、振り返りシートの文をまとめ、全員で共有してきただが、復習や予習と捉えられていなかつたようなので、後期の課題である。
		幼児と図工 I 5.6組	中間アンケートをとった授業のため	学生のアンケートから充実していることを把握できたため、学びがより深まっていくように積極的な参加を促すための工夫つまり質疑応答、課題の発表、グループワーク、コメントペーパーなどを行なった。特に学生全員の毎回の振り返りシートにコメントをして返却する振り返りシートによって、学生の学び、気づき、状態、成果に対する判断を伝え次回の意欲につながるように心掛けた。	「中間アンケートで出された学生の意見、要望に対する取り組みは見られましたか。」の質問に対しての回答で、「そう思う」が50パーセントにとどまっている理由は、中間アンケートではほとんど要望がなかったことが、反映されている結果だと答えている。現状のアンケート内容だと改善されていないような結果になるためだ。そう理解している。今後は予習や復習の内容を充実させて、授業のさらなる充実を図っていきたい。
保 千田 耕太郎		幼児と音楽 I (1・2組)	音楽の授業の中で1年生全員が履修し、かつ最も多くの非常勤講師の先生が携わっている授業であるため。	授業に関する要望がいくつかあったので、授業担当者全員で共有し、改善をお願いした。	到達目標を70%以上達成できたと回答した学生は89%であった。昨年はオンライン授業の期間もあり、単純には比較はできないが、昨年度に比べ達成度は上がっているように感じる。ピアノの必修課題についての見直しが功を奏しているのかもしれない。ただ、ピアノという学習内容の性格を考えると、予習復習にかける時間がまだまだ短いのが気にかかる。※幼児と音楽 I (5・6組)のアンケート結果については、3・4組とよく似た傾向となった。
		幼児と音楽 I (3・4組)	音楽の授業の中で1年生全員が履修し、かつ最も多くの非常勤講師の先生が携わっている授業であるため。	授業に関する要望がいくつかあったので、授業担当者全員で共有し、改善をお願いした。	到達目標を70%以上達成できたと回答した学生は100%であった。昨年はオンライン授業の期間もあり、単純には比較はできないが、昨年度に比べ達成度は上がっている。ピアノの必修課題についての見直しが功を奏しているのかもしれない。ただ、ピアノという学習内容の性格を考えると、予習復習にかける時間がまだまだ短いのが気にかかる。※幼児と音楽 I (5・6組)のアンケート結果については、3・4組とよく似た傾向となった。

教職員氏名	科目名	1. この科目（クラス）を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。	2. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	3. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
保 森 麻希子	子ども文化 I (音楽)	この授業では、手遊びと童謡の視覚化(ペーパーサー・ペナルシアター)を主に取り扱い、保育者として人前で発表する機会に慣れてほしいという想いから、個人とグループ活動をそれぞれ実施し授業内発表を行った。授業評価アンケートの対象に選んだ理由として、保育学科1年次の唯一の選択科目であるものの、大半の学生が履修しているため、学生の授業に対する満足度を知り今後の改善に繋げたかったから。	中間アンケートにおいて学生から要望があったグループワークについては、当初より授業後半で取り扱う計画だったため、予定通り実施した。制作時間についての要望もあげられた。授業回数としては十分確保しているが、童謡を歌い表現を深めること、制作することを両立してする必要があるため、より効率的に取り組めるよう今後も内容の見直しをおこなっていきたい。その他の要望として、発表が見えにくい、他のクラスの発表もみたいといった回答については、新型コロナウイルス感染予防のため、受講者数に対して使用できる教室が限定されていることや、一同に会するのではなく二箇所に分かれて授業をしていたため、今期の授業中には対応できなかったところもあるため、今後の検討課題としたい。	学生の自己評価と、成績の割合は概ね対応する形となった。7割近くの学生が、ほとんど・かなり達成できたと回答している一方で、達成できなかつたと回答している学生もいる。表現活動や制作に対して苦手意識を抱える学生に対してのフォローや、それぞれの活動に対する取り組みや工夫のポイントをより的確に伝えられるように、今後も見直しを隨時行なっていきたい。
	こども 音楽療育演習	選択授業ではあるが、「こども音楽療育士」の資格取得に関わる科目のため。	中間アンケートについて、授業内容の改善点については特に回答がなかった。良いところとして、少人数での受講のため目が行き届きやすい、実用的な音楽遊びの方法などが学べる、先生も楽しみながら授業しているので受講している方も楽しみながら意欲的に学べる、などがあげられた。この授業では指導方法や子どもへの具体的な声かけの方法などを扱っており、教員がどのような姿勢で授業を実施するかで、学生の学習に対するモチベーションや子どもへの接し方も変わってくると思われる所以、今後もより充実した授業内容になるように改善に努めていきたい。	学生の自己評価と成績がおおむね対応する形となった。希望者による少人数制の授業ということもあり、意欲的に取り組む学生が多く、個人活動による授業内発表においても、学生同士または教員と活発に相談しながら進めることができた。今後もより良い授業を展開できるよう、内容の見直しを隨時行なながら取り組んでいきたい。
保 川松 智子	子ども文化 II 腹話術	このクラスしか受け持っておりません。	中間アンケートの結果は現状への満足という回答が多く少人数での授業がとても楽しく満足のいくものであるという結果でした。中間アンケートの後も引き続いて腹話術技術の習得と、保育現場での具体的な生かし方を伝えるようにしました。	当初の目標であったことは①オリジナルのパペットを自分で作成する。②腹話術技術を習得する。③保育現場での使い方を知る。ということでした。さらに加えて、実際に保育現場で一人ずつ公演発表をするという課題も計画しました。しかしコロナ問題で実現しませんでした。そのかわりに、授業内の発表会をし、その内容についてはそれぞれの努力の跡が見られ、よく頑張り習得したと思います。発達障害の子どもたちと腹話術の効果についても理解してもらえたと思っています。実習や現場で役に立つ技術を皆さんに身につけていたいと思います。

	教職員氏名	科目名	1. この科目（クラス）を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。	2. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	3. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
保	多田 知正	子ども文化Ⅲ (WEBデザイン)	この科目が唯一の担当授業だから	当初計画よりも講義の割合を減らしてパソコンを使用しての実習時間を長めに取るように変更した。	課題への取り組み方には学生によって差が大きく、真面目に取り組んだ学生については到達目標を十分に達成できたと言える反面、最低限の到達目標しか達成できなかった学生も見られる。今後の課題としてはパソコンに対する苦手意識を持っている学生に対し、どのようにやる気を引き出すかという点が挙げられる。
保	和田 謙一郎	日本国憲法と人権	2コマ担当のうち、回答が多い方を選択した。	グループワークなどを希望した学生がいたので実施した。しかし、コロナ感染のリスクも考え限界があった。なお、学生が全面的に受け身となるような要望(簡単に述べるならば、ラクをしようとする要望)には対応しなかった。	学生は、憲法を暗記することを前提とした考え方方が強かつた。簡易な事例を使用しながらも、憲法の目的や解釈について、自ら考えさせることを念頭に置いていたが、座学が苦手な学生には通じなかつた様子である。やむを得ず、後半は、日本国憲法と人権というよりも、児童・保育に近い内容の講義となり、レポート試験もそれに準じた。レポート試験でも、憲法・人権に触れる学生は僅かであったことが残念であった。ただし、僅かでも、ネット情報のみに頼らず、図書館に通うなどして自分で考え自分の力でしっかりとレポート作成を行う学生がいたことは、講義を担当した者として救いとなつた。
保	澁谷 みどり	英語 (英会話A)	同じ授業の最初にあたり、その反応をしりたいため。	スライドの展開が速いようなので、気持ち間をとるようになると、学生に声をかけてもらうように指示した。	テキストで使われている表現を覚えて使えるように分かりやすく説明をし練習問題を解くようにし、かつ一人で考えないで回りと教えあったりできるように授業を開催したので、理解できたと感じることで到達目標に少しでも達成できたと考える学生が多かったのは良かったと考える。今後も、理解できると思えるような授業をして、自信をつけてもらえるようにし、保育現場でも応用できそうなトピックを授業に取り入れるようになたい。
保	竹歳 賢一	情報基礎	こちらの質問に対して真摯に回答でき回答数が多いクラスであったからである。	積極的な参加を促すための工夫の必要性がアンケート結果から伺えたので、質疑応答や毎回の授業まとめレポートを科すなど行った	アンケート結果から肯定的な回答である「ほとんど達成できた」「かなり達成できた」「少し達成できた」の比率の合計が84%であったことから、概ねシラバスの達成目標は達成できたと思われる。今後の課題として、積極的な参加を促すための授業工夫の必要性があるので、レポート課題に対するフィードバックを充実させるなどの対策を講じたい。

教職員氏名	科目名	1. この科目（クラス）を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。	2. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	3. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
保 中川 陽子	保育原理	本クラス群のほうが他クラス群よりも学生個々の成果物に差があり、学生の本科目への評価や事故達成度を知りたいと感じたため。	中間アンケートの結果を受けて、スピード(速い・遅い・ちょうどいい)のバランスが難しく言葉をかけながら展開した)や方法(PPTの工夫、記述、穴埋め、グループワーク増、振り返りを学生同士で吟味する)などできるだけ改善を試みたが学生のそれぞれの思いや能力などを鑑みたうえですべて反映させることが難しく、今後は到達目標の精査、シラバスの改善が必要であると感じた。	授業内外の課題については、しっかりと向き合い仕上げてくる学生が多くみられた。定期試験については、基本事項の確認や対策プリントを配付していたが点数に大きな差が出ている。今後は、理論に関する反復ができるような授業展開をしていき、知識の定着を図りたい。
保 馬場 住子	保育・教育課程論	真面目な学生が多く、アンケートに真面目に向き合った回答が得られると思ったため選びました。	授業内で質問をしていたが、学生には問われている内容が分かりにくいようであったことが中間アンケートで分かった。そのため、質問内容を丁寧に学生が理解できたかどうか確認しながら実施するように改善した。一部パワーポイントが色などで見ににくいとの指摘があったため、できるだけ見やすい色に修正した。出席確認時返事をするよう指導していくが、コロナ感染防止の観点から返事をしない授業が多いとの指摘があったため、返事をするように指導しないように変更した。テキストの説明をする際にページ数を言うようにした方が分かりやすいという意見があつたため、時間をかけてページ数や行数を伝えるようにした。	定期考査、指導案作成などはよくできていたと捉えていたが、アンケート結果では、シラバスの到達目標がかなり達成できたと答えた学生が31パーセント、少し達成できたと答えた学生が50%であった。そのことから、学生の評価と自身的評価に差があると感じた。今後は、全員が目標を達成できたら達成感が得られるような授業内容を取り入れるなどの改善が課題であると考える。
保 長谷 範子	保育内容演習 (言葉・人間関係)	3クラス同じ授業をしているが、一番授業に参加する意欲が弱いと感じていたので授業に対してどのように感じているのかが知りたいと思った。(5限で疲れているということも影響しているとは思うが。)	中間アンケートで、質問に対しての回答が丁寧ではないという意見と丁寧に答えてくれてわかりやすいという両方の意見があつたので、授業では言葉を変えながら丁寧に説明をするよう心掛けた。	全体としては、70～80%の到達度であると思われる。本授業で取り組む予定の演習は他科目でしているのでしたくないとの要望が強く、急遽演習内容を変更する必要が生じた。今後は、早めに演習科目での取り組みについて、学生から情報を得る必要があると思った。かなりの割合で完全に机に突っ伏しじ「とた寝」をする学生があり、年々増えていると感じる。学ぶものとして自覚を持ってもらいたい。
保 岡山 貴範	保育内容演習 (環境・健康) (5, 6組)	特に大きな理由はなく、どこのクラスでもよかったです。4限目のクラスが最後だった為、時間の調節などがしやすかったことからこのクラスをアンケートの対象にさせて頂きました。	中間アンケートでは、この授業について改善してほしい点で「特になし」という意見が大半でしたが、配布プリントが多いという意見や、スライドの次に進むスピードが少し早いといった意見がありました。その為、配布プリントを見直し、レイアウトを変えて枚数を減らせるよう努力しました。また、次に進む際も、「次に進めていいですか」と確認をとりながら授業を進めてきました。	シラバスの到達目標としたは、概ね到達できたと感じていますが、アンケート結果では一部の学生から到達できたと感じていないという意見もあったので、今後は、授業の最初にシラバスの授業内容を記載し、確認しながら授業を行えるように改善していきたいと思います。

	教職員氏名	科目名	1. この科目（クラス）を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。	2. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	3. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
保	谷 玲子	保育内容演習 (総合表現)	この科目のみの授業です。	中間アンケートをおこなったのか、記憶にありません。3の回答の続き四條畷学園には、とても熱心に受講する学生がある一方で、そうでは無い学生も居り、そのギャップに悩む所もあるかと思います。2年生ですから、各自がそのギャップを感じ、流されないようにしていると話してくれた学生が居る。3クラス選択制にして、同じ目標を掲げた学生が集まるるよう工夫しても良いのかなと思う。次年度は、コロナもおさまり従来の総合表現の授業が再開出来るよう祈るばかりだが、コロナ禍での工夫した個々人のシアターは、無くなるのは捨てがたいと感じている。今後とも、私にできる限り、一杯指導させていただきます。	シラバスの達成目標は、学生方の回答通り達成できた学生とほぼ達成できた学生の回答になる。コロナ禍授業授業として、各手法を本人の希望で選択して制作し演じることが目標なので、各々学生の到達目標が出来ていると思う。家庭学習は、上記の様に手法が違うものを制作するので、2時間以上～30分未満の差が出る。音美体3者での総合授業となるが、家庭学習時間の幅を少なくするには、選択手法の選択肢を少なくする方が良いかとは思う。到達目標は、学生自信で到達目標に達したかどうかを記入するので、目標の高い学生と目標の低い学生が居る。以後は、2の回答欄に記入する。
保	堀口 節子	カウンセリング 概論	当クラスは全体に授業の出席率も高く、授業評価アンケートの回答率も高く、評価が分かりやすかったから。	授業は難しい専門用語や専門的な内容が多かつたため、学生たちから「授業が難しい」という声が出ていたので、表や図・絵等を出来るだけ使用して目で見える形で説明し、また、具体的な内容(事例など)を多く使用して授業をすすめた。	アンケートの結果で、「学生の意見や要望に対する取り組み」は94%がそう思う、ややそう思うと回答しており、授業の改善・工夫の取り組みが評価されたと考える。積極的な参加を促すための工夫は、88%がそう思う、ややそう思うと回答しており、おおむね評価されたと/or思っているが、今後も図や表、マンガや絵での表現を使用しながら、授業により参加しやすい内容を考え行きたいと思います。
保	竹永 知弘	日本語表現 (スタディスキル含む)	回答率が最も高かったため。	ワークシートなどをもちいて、より積極的な参加をうながすようにした。	予習と復習に当てられた時間が全体的に短いので、今後は改善したい。

教職員氏名	科目名	1. この科目（クラス）を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。	2. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	3. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
ラ 工藤 真由美	日本語表現法(A)	ライフデザイン総合学科の1年生必修授業であり、2クラス編成のため、全員の声を聴くことが可能であるため。また、例年授業評価アンケートを取っている科目であり、年度比較も可能と考えたため。	中間アンケートで改善を希望する内容は、クーラーの温度が低すぎる3名、漢字テストを毎回するのはやめてほしい2名、パワーポイントの文字を大きくしてほしい5名。その他は「なし」と回答。上記に関して、クーラーの設定温度は事務所での管理があるので、できるだけ高い目に設定するように依頼した。しかし、前期の後半には気温も上昇し、逆に暑いという学生もあり、教員の対応に限界があった。(授業を中断して事務室まで設定温度の変更依頼に度々は行けない)毎回の漢字テストはシラバスにも記載し、成績評価の対象とすることにしており、その分事前のテスト前学習時間を長めにとることで対応した。パワーポイントの文字も見やすく改善した。	ほとんど達成できたと回答した学生が4%と大変低く、実際には24%が非常によく目標を達成できており、自己評価と実際の達成度が乖離している。その傾向はほかの達成度でも同様で、自己評価が低いことがうかがえる。自己達成感を高められるように、普段から成果を可視化できるように工夫したい。
	日本語表現法(B)	ライフデザイン総合学科の1年生必修授業であり、2クラス編成のため、全員の声を聴くことが可能であるため。また、例年授業評価アンケートを取っている科目であり、年度比較も可能と考えたため。	中間アンケートで改善を希望する内容は、グループワークなどを増やしてほしい2名、パワーポイントの文字を大きくしてほしい5名、その他は「なし」と回答。残念ながら、グループワークに関しては、コロナの感染状況を踏まえ、実施できない。次年度以降の課題である。パワーポイントの文字は拡大して見やすくした。	ほとんど達成できたと回答した学生7%に対して、実際は30%が非常によく目標を達成できている。かなり達成できたと回答した学生32%と併せて学生評価39%、教員の評価36%とほぼ同数となる。学生の自己評価が低く自覚されている。自己達成感を高められるように、普段から成果を可視化できるように工夫したい。
ラ 中川 玲子	食生活 アドバイザー	今年度は、検定試験実施日が2週間繰り上がったため、授業日程を休講、補講によって繰り上げ、短期集中型授業とした。これにより、前年度までの指導方法に改良を加え、予習⇒過去問題の解説⇒解説した過去問の繰り返し復習を徹底した。この科目（クラス）を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由は、授業中間時点で授業に対する受講生の感想や要望を確認し、後半の授業に生かしたいと思ったからである。	過去問題集の各章内での類似問題をグループング、資料「学習ナビ」にまとめ、授業で配布した。授業ではこれにしたがって解説を行うとともに、解法のポイントを示して復習の効率を上げるように工夫した。中間アンケートでは、第1回目の授業から中間アンケート実施までに行った今年度改良したこの授業方法について、全員から「わかりやすい」との評価が得られたのでこの方法を継続し、さらに解説内容の充実に努めた。	授業評価アンケートの結果では、「やや」を含め全員から「学生の意見、要望に対する取り組みがみられた」、「学生の積極的な参加を促すための工夫がされていた」と評価された。予習・復習については、半数の学生が1週間に2時間以上行っていた。シラバスの到達目標については、4名中2名がほとんど(90~100%)、1名がかなり(80~89%)達成したと評価した。今回の検定試験に受講生全員(4名)が受験し3名が合格した。授業評価アンケートに表れたシラバスの到達目標への達成度は、そのまま検定試験合格という結果に繋がった。
	食の科学A	今年度は、学生の理解を深め、学習意欲を高める目的で視聴覚教材をこれまでより多く取り入れた。その取り組みが学生の学びにどのように影響しているかを知り、後半の授業改善に生かしたいと思い、この科目（クラス）を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ。	授業環境として、スクリーンが見にくい、暗いので改善してほしいとの要望が複数あり、後半教室変更を行った。一部の学生から、「参加型の部分を増やしてほしい」との意見があり、課題や発言の機会を増やすなどの取り組みを行った。	「やや」を含め80%の学生から、中間アンケートで出された学生の意見、要望に対する取り組みがみられたと評価された。一方、「やや」を含め、参加を促す工夫がされていたと評価した学生は6割に留まった。予習・復習にかける時間については、週2時間以上の学生が0人、30分未満が半数であった。シラバスの到達目標達成状況では、8割の学生が70%~100%達成したと評価した。この結果から、学生の積極的な参加を促すための予習・復習を伴う新たな工夫の導入と、それによる到達目標達成度の向上を今後の課題とする。

教職員氏名	科目名	1. この科目（クラス）を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。	2. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	3. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
ラ 伊東 めぐみ	医療事務 I	医療事務エリアの基礎的かつ重要な内容として1番最初に学ぶ科目であること、履修生が多いので2つのクラスに分けていたため、両方のクラスでアンケートを実施することで、この科目全体の履修生へアンケートを実施できるので。	中間アンケートでは、授業を改善してほしい点についての回答はなかった。授業担当者として授業内容を工夫した点としては、最初の授業の様子からみて教卓の前で全体に説明するより、1人1人のところへ行って直接説明するほうが学生は理解しやすいことがわかり、時間がかかるので学生が解く問題の数は減るが、少ない問題数でも確実に理解を重ねていくことが大切であると考えて、個別に説明する時間を多く取るようにした。	学生の最終評価は、秀、優合わせて46%であり、約半数の学生が8割以上の理解度に到達し、シラバスの到達目標に達しているという結果であった。学生のアンケート結果は、ほとんど達成できた(90~100%)21%、かなり達成できた(80~89%)32%で合わせて53%であり、やや学生のアンケート結果のほうが高い評価であったが、概ね実際の評価と学生のアンケート結果は同程度であった。
	医療事務 I	医療事務エリアの基礎的かつ重要な内容として1番最初に学ぶ科目であること、履修生が多いので2つのクラスに分けていたため、両方のクラスでアンケートを実施することで、この科目全体の履修生へアンケートを実施できるので。	中間アンケートでは、授業を改善してほしい点についての回答はなかった。授業担当者として授業内容を工夫した点としては、全体に説明するより、1人1人のところへ行って直接説明するほうが学生は理解しやすいという傾向はもう一つのクラスと同じであり、個別に説明する時間を多く取るようにした。もう一つ、授業環境面として、マイクの調子が悪く、最初は使えるが途中で使えなくなる状態だった。後期の授業開始までには改善する必要がある。	学生の最終評価は、秀、優合わせて41%であり、約4割程度の学生が8割以上の理解度に到達し、シラバスの到達目標に達しているという結果であった。学生のアンケート結果は、ほとんど達成できた(90~100%)24%、かなり達成できた(80~89%)18%で合わせて42%であり、概ね実際の評価と学生のアンケート結果は同程度であった。少し達成できた(70~79%)と答えた学生も41%であり、ほとんど達成できた、かなり達成できたと感じている学生とほぼ同数であることがわかった。
ラ 安谷 元伸	情報倫理	「なわてドリル」など様々な学習要素を取り入れて展開している授業のため。	中間アンケートで「なわてドリル」に課題をアップロードした際に連絡が欲しいとの声が複数寄せられたため、以降ユニバで金曜日に課題掲載の連絡を届くようにした。また、授業への参加を向上させるワークショップ的内容を更に充実させた。	ユニバでの課題掲載連等を取り入れた結果、問1では「そう思う」「ややそう思う」が92%となり、取り組みに一定の成果が認められたものと考えられる。一方、1名は「そう思わない」と回答しているため、他の学習ニーズについても分析に取り組みたい。問2では「そう思う」「ややそう思う」が100%となり、積極的な学修参加の取り組みを進めてきたことが学生にも理解されたものと考える。シラバスの到達目標達成率については「あまり達成できなかった」と回答した学生が1名いたため、問3の学習時間と併せて内容の充実を模索したい。
	表計算演習 I	資格試験とも関連する2年生対象の重要な授業として捉えているため。	演習時間の確保と学習環境の整備。	問1 中間アンケートで出された学生の意見、要望に対する取り組みに関する回答では、「そう思う」「ややそう思う」を併せて100%となり、中間アンケート以降取り組んできた授業回線の成果が見られたと考える。また、問4のシラバス達成率についても、同様に「そう思う」「ややそう思う」を併せて100%となった。問2で「あまり思わない」との1名の回答が見られたものの、学生達の学習意欲も高く、集中して演習に取り組む授業環境を進展させることができた。

	教職員氏名	科目名	1. この科目（クラス）を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。	2. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	3. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
ラ 赤田 太郎	自分探しの心理学	ディスカッションを多く取り入れた取り組みを行ったため。	中間アンケートでは、スクリーンが見にくいときがあること、時間を早く切り替えすぎて追いつかないこと、準備に時間がかかるなど指摘されたので、それぞれ、見にくくならないようにスライド上で記入したり、スライドを切り替えるときに声掛けをしたり、準備を早く行ったりすることで改善しました。	ディスカッションについては、大変好評でした。ほかの科目でこのような取り組みを行っているところが少なくて、学年の交流もできてよかったです。座席を固定していたので、次回からは定期的に後退してもよいと思いました。	
		少人数クラスだったため(6名)	中間アンケートでは、問題点は指摘されなかった。ひとりひとりに質問していくスタイルが授業に参加できている形になつていて、よかったですという意見があつた。	学生が答えられるであろう質問を準備して、その答えに対して考える時間を取りことで、居眠りする学生はほとんどいない状態になった。到達目標を十分に達成できたと考えている。	
ラ 河合 真知	キャリアデザイン	本科目は、ライフデザイン総合学科のベーシックフィールド・キャリアエリアの必修科目であり、1年生全員がこの前期に履修するため、授業評価アンケートの対象科目とした。1年生の必修科目であれば、本学において入学間もない学生の意見をいち早く収集することができる。本科目への活用に留まらず、他の科目及び後期や2年次にも、より良い授業設計に活かしたかったためである。また、本科目は2クラス設置し、同日の1限目と2限目で実施しているが、アンケートは2限目クラスで実施した。理由は、1限目は交通機関の遅延等による遅刻者がよくあり、授業進行が2限目よりも遅れがちなため、実施時間の負担を考慮し、2限目で行った。	中間アンケートで、課題が多いとの意見があつたが、これは科目の性質上致し方ないと考える。特に中間アンケート直前までは、自己分析を中心に行っていました。これまでの人生の振り返りやアセスメントに対する内省、周りの人への聞き取り等、授業時間や教室内だけで終了できるものではないからである。その旨学生には授業内で伝えた。一方、グループワークが苦手との意見があつた。こちらにはそれまで以上に配慮し慎重に行った。グループワークへの積極的な参加訓練もかねて、段階を踏んで実施した。グループワークを苦に授業欠席とならないよう、役割分担をあらかじめ指定してスタートさせたり、自己開示については強制にならないよう、発表テーマを慎重に設定した。	アンケートによる学生の到達目標達成の認識は、「ほとんど達成できた」19%、「かなり達成できた」33%で、あわせて52%あった。一方、成績はS・Aあわせて60%を上回った。科目の性質上、自らのキャリアに関する考えを現段階で確定していくことは難しく、その点において自己認識としては低く表れたと考えられる。しかし、キャリアを考える上で主体的設計に関し、真摯に向き合い、問題意識を持ち、自らのキャリアを考えることはできた学生が多いと判断した評価であるため、若干評価の方が高い結果となったと考える。本結果は、後期のキャリアプランニングにおいても活かしていきたい。	
		ビジネス実務演習	本科目は、ライフデザイン総合学科のアドバンスフィールド・ビジネスエリアにおいて、1,2年生が自由に履修できる選択科目であるが、エリア内の位置づけとしては、第一ステップの演習科目と言えるため、授業評価アンケートの対象科目とした。また、本科目を履修後、後期に「ビジネス総合演習」を続けて履修する学生も多い。このことから、アンケート結果を後期の「ビジネス総合演習」及び他のビジネスエリアの選択科目にも反映させていきたいと考え、アンケート対象科目とした。また、選択科目でありながら、30名近い履修登録者がいることも、アンケート対象とした理由である。	中間アンケート前は、初回から座席は学籍番号順の完全座席指定としていたが、PPTが後ろの席で見にくいとのコメントがあつたため、座席移動の希望を募り、前方での受講を認めた。その後、全員の希望を確認し、固定席とした。また、PPTの文字をより大きくするなど工夫し、文字が見にくくと申し出はせず、座席変更の希望も出さなかつた学生に対しても、より見やすくなる様にした。一方、宿題課題が多く、課題を減らしてほしいという意見があつたが、本授業は秘書検定等の資格取得支援科目であるため、減らすことはできかねる。そのため、各自の目標に合わせた取り組みができるよう、提出の方法や解答しやすい出題を心がけた。	学生の到達目標達成の認識は、「ほとんど達成できた」23%、「かなり達成できた」27%であり、成績は、Sが28%、Aが28%であった。よって、学生自身の認識と成績に大きな隔たりはないと考える。課題は、本授業はビジネス系検定の受験支援科目であるため、秘書検定等6月に受験を決めている学生と、受験しない学生とでは、授業の予習・復習の時間のかけ方やモチベーションに違いが出ることである。小テスト等は、検定受験に合わせた難易度の高い出題だったため、「少し達成できた」に留まった学生の多くは、受験しない学生が多かったのではないかと推察される。今後は彼女らのモチベーションアップへの声かけ等を工夫していきたい。

教職員氏名	科目名	1. この科目（クラス）を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。	2. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	3. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
ラ 久保 覚司	医療事務コンピュータ1	コンピュータを使う特性上、授業方法が多岐にわたるため、それを確認するために調査したかった。具体的には、・入力方法等を手取り足取り教える方法・自習タイプで、ついてこれない学生の支援を行う	大変申し訳ございませんが、中間アンケートを取り忘れており、第13回～14回の頃に実施しました。今回の授業方式（自習タイプ）の方が反応がよく、積極的に授業に取り組める（優秀な学生は難しい問題に取り組むこともできた）との意見があり、こちらの授業方式で問題なかったと判断した。後期の講義（医療事務コンピュータ2）についても、同様の方式で行いたいと考えている。一方、苦手としている学生（であろうと思われるが）から、『端っこに座っている学生にもちゃんと回ってきてほしい』との意見があった。平等に机間巡回することを心掛けたが、どうしても質問を受けるとそこにつきつきになってしまふ傾向があった。座席の場所決めを考慮したり、指導に時間をかけられるように長谷川さんと工夫していきたいと考えている。	成績面では、大半の学生が概ね達成できたと考える。授業内テストでは、普段の講義より少々難易度の高いもの（検定試験で利用された過去問を借用、検定合格程度の水準があるかどうかを判断するため）を使ったが、半分以上が8割以上できていた。反省点でもあるのだが、机間巡回の際は、できる子できない子問わず積極的に話しかけるように努めた。（理解できていない学生を見逃さないため）そのせいで、回ってくる回数が少ないとの意見が出たのは反省すべき点だが、"積極的な参加を促す…"面では効果的だったと考えている。「手書きのレセは嫌いだったけど、この授業を受けて、レセ作成の意味がわかつてきた」といってくれた学生も数名いたため、今後益々細かく指導できたらと思う。
	医療事務 コンピュータ1	上記と同様（クラスが二分されているため）コンピュータを使う特性上、授業方法が多岐にわたるため、それを確認するために調査したかった。具体的には、・入力方法等を手取り足取り教える方法・自習タイプで、ついてこれない学生の支援を行う	大変申し訳ございませんが、中間アンケートを取り忘れており、第13回～14回の頃に実施しました。今回の授業方式（自習タイプ）の方が反応がよく、積極的に授業に取り組める（優秀な学生は難しい問題に取り組むこともできた）との意見があり、こちらの授業方式で問題なかったと判断した。後期の講義（医療事務コンピュータ2）についても、同様の方式で行いたいと考えている。一方、苦手としている学生（であろうと思われるが）から、『端っこに座っている学生にもちゃんと回ってきてほしい』との意見があった。平等に机間巡回することを心掛けたが、どうしても質問を受けるとそこにつきつきになってしまふ傾向があった。座席の場所決めを考慮したり、指導に時間をかけられるように長谷川さんと工夫していきたいと考えている。	成績面では、一部の学生が不可となってしまったが、大半の学生が概ね達成できたと考える。不可になった学生について原則、課題を提出できていればそれなりに点数は出たのだが、未提出分が多かったため。医療事務コンピュータを履修する=医療系を目指すと勝手に判断していたため、その点については改善していくなければならない。（伊東先生に確認したところ、該当学生は医療系ではないらしい）こちらは、「積極的な参加…」について『ややそう思う』が多い傾向があった。科目的特性上、全体で発表することはできない講義のため、質疑応答をする回数を増やすために机間巡回を徹底していたのだが、よい傾向につながらなかったのかもしれない。後期開講の医療事務コンピュータ2については、多少人数が減ると想定されるため、今回のアンケート内容を反映させられるようにしたい。

教職員氏名	科目名	1. この科目（クラス）を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。	2. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	3. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
ラ 伴 裕果	くらしのマナーA	担当科目が本科目のみであったことと、本科目が講義演習双方の形式で、学生と教員の双方向性のある授業を行うことによって学習成果を挙げることを目的としたためその振り返りを行いたいと考えたため。	学生の理解度に応じて復習や反復の機会を持つこと、グループワークの機会や発言の機会を増やすことを行った。	積極的な参加を促す工夫があったかについて、そう思う、ややそう思うが100%であった。到達目標は達成80%以上が43%、達成79%以下が57%であり、毎回の予習復習時間は半数以上が30分未満であった。発言やワーク等の機会を増やすことと、それにおいての自主的な行動を数値化し報告することで自覚を促し、その数値を挙げていることを短期目標としたことによって、各回の目標達成につながったと考える。成績は優、良の計が33%、可48%であり、達成度に対し傾向は合致するものの、やや成績の割合が低くなるのは予習復習時間に課題があると考える。今後も積極的な参加を促す工夫を行うとともに、主体的に予習復習に取り組む工夫を検討したい。
	くらしのマナーB	担当科目が本科目のみであったことと、本科目が講義演習双方の形式で、学生と教員の双方向性のある授業を行うことによって学習成果を挙げることを目的としたためその振り返りを行いたいと考えたため。	学生の理解度に応じて復習や反復の機会を持つこと、グループワークの機会や発言の機会を増やすことを行った。	積極的な参加を促す工夫があったかについて、そう思う、ややそう思うが100%であった。到達目標は達成80%以上が43%、達成79%以下が57%であり、毎回の予習復習時間は半数以上が30分未満であった。発言やワーク等の機会を増やすことと、それにおいての自主的な行動を数値化し報告することで自覚を促し、その数値を挙げていることを短期目標としたことによって、各回の目標達成につながったと考える。成績は優、良の計が33%、可48%であり、達成度に対し傾向は合致するものの、やや成績の割合が低くなるのは予習復習時間に課題があると考える。今後も積極的な参加を促す工夫を行うとともに、主体的に予習復習に取り組む工夫を検討したい。

教職員氏名	科目名	1. この科目（クラス）を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。	2. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	3. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
ラ 黒川 圭子	スポーツ I	担当科目であるため。	・学生の運動能力に2極化が見られ、個人と集団指導を併用しながら、グループや内容を変更して進めた。・教場の室温が高いため、学生の動きも鈍く、熱中症対策として、13回～15回は教室にて、運動と座学の授業へ 変更した。	・勝敗だけにとらわれず、身体を動かすことを楽しむという、基本的に重視している点は、達成できたと考える。・学生同士のコミュニケーションについては、今一つめられないケースも見られ、全体をまとめる鍵となる 学生の取り込み方など異なる指導内容の工夫については、反省点である。
	トータルビューティ エクササイズ	担当科目であるため。	・教場の室温が高いため、学生の動きも鈍く、熱中症対策として、13回～15回は教室にて、運動と座学の授業へ 変更した。	・個別メニューの作成とまではいかなかったが、学生個人では、自宅でストレッチングや筋トレの一部を実施 しているという意見も聞かれ、完璧ではなくとも、日常生活における習慣的な実践の達成は、できた学生も いたと考える。・現状の整形外科的疼痛や違和感などについて、質問や相談を受け、その後の経過などの内容をまとめると、トレーニングの整合性を感じた学生もいることや、姿勢や体力バランス、の必要性について、関心は持って もらえたのかと感じる。
ラ 伏木 真理子	英語 (英会話A)い	必修科目のため	・進むスピードが遅い、もっと問題をどんどん解きたいという声があつたので、問題に取り組む時間を短くし取り組む量を多くした。英文の和訳を知りたいということなので、授業後ユニバに掲載するようにした(授業時に書き取る時間と書くのが遅いので、問題に取り組む時間が減ってしまうため)・PowerPointの字が小さくて見にくいということなので、大きくした。	・中間アンケートの学生の意見・要望に対して改善が見られたという回答は、そう思うとややそう思うを合わせて77%だった。・シラバスの目標達成については、ほとんど達成できた8%、かなり達成できた19%、少し達成できた54%で、合わせて81%だった。学生が感じた達成度と成績分布は比例している。・出版社が提供するCheckLinkというスマートで解答し、正答もスマホに掲載されるシステムが好評だったので、今後も活用しようと思う。
	英語 (英会話A)ろ	必修科目のため	・問題を解答する時間が短いという声があつたので、時間を長くとるようにした。・英文の和訳を知りたいということなので、授業後ユニバに掲載するようにした(授業時に書き取る時間をとると書くのが遅いので、問題に取り組む時間が減ってしまうため)。	・中間アンケートの学生の意見・要望に対して改善が見られたという回答は、そう思うとややそう思うを合わせて69%だった。・シラバスの目標達成については、ほとんど達成できた、かなり達成できた、少し達成できたが合わせて53%に対して、あまり達成できなかった、ほとんど達成できなかつたが合わせて46%だった。学生が感じた達成度と成績分布は比例している。・大学生用で一番やさしいレベルのテキストを使っているが、難しいという声もあつたので、すべてのUnitではなく、特に大切な文法事項を扱ったUnitを選んで授業をするほうがよいと思った。

	教職員氏名	科目名	1. この科目（クラス）を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。	2. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	3. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
ラ 鶴田 美香	色彩の基礎 I	人数が一番多く、かつ基礎を学ぶ上でもっとも大切な教科だから。	板書の記入書きを少なすし、プロジェクターを使い見てわかる内容に重きをおきました。また、アンケートでは一人一人への声掛けが好評だったこともあり、その点は継続しておこなった。	全日程を通して色彩の基礎学習の課題をこなす力はついたが、問題文が複雑になると解けなくなるため、今後は応用力の習得に力をいれる必要があると感じた。基礎知識の習得は行えたので、定着化させデザイン性など、創作課題に学んだ知識を活用できるレベルを目指す。	
		ファッショングランディング	新設のクラスであるため、生徒の意見を参考にし更なる発展に役立てるため。	自分に何が似合うかなどに意識はむくが、他者への関心が薄く、プランニングの提案などが出来ない。ファッショングランディング知識の偏りから、自信がもてない子も多く、知識の共有化をはかる時に恥ずかしいと感じることのないよう発言しやすい環境に注力した。	自分軸がみえてきたことで、なんとなく揃えていた洋服に基準をもつようになってきた。また選んだものへの自信も現れはじめ、人の目が気になる当初からは見違えように、洋服の構成などを考えられるようになっている。
ラ 吉井 珠代	公衆衛生学		中間アンケートは実施していませんでしたが、中間時点で、DVD教材の映像を後ろ側席の学生にもよく見えるように前側席と後ろ側席を入れ替えたため、見えやすくなつた学生が高評価をつけたのではないかと考えます。	回答数が28%なので正確には分析できませんが、概ね、成績の分布(率)と同様な数字(回答率)が出ており、ある程度は「到達目標」が達成できたのではないかと考えます。授業後の感想文や定期試験の感想欄には、当該科目を受講して、「健康に暮らせていることの幸せ」や「無事に生まれて育つことの母親への感謝」を多くの学生が記述してくれているので、胸をなでおろしています。	
		解剖生理学	中間アンケートは実施していませんでしたが、中間時点で、視聴覚教材の映像を後ろ側席の学生にもよく見えるように前側席と後ろ側席を入れ替えたため、見えやすくなつた学生が高評価をつけたのではないかと考えます。また、小テストの成績が芳しくなかつたので、具体例を多く取り入れる説明を心掛けたことにより、後半の小テストは非常に高得点が出ました。	わずか17%の回答率なので、成績との関係を分析することはできませんが、回答者の86%が、「かなり達成できた」「少し達成できた」と答えてくれていたことを“学生の感想として受け入れたい”と思います。	
ラ 森石 加世子	家族心理学	受講する学生の興味、理解度等を知るため。	中間アンケートでは、全体に授業内容に満足をしていることが表されていたため、それを継続するようにした。教室の扉が開いており、教室の外の音が入ってくることや、換気をしていたりしているためか、授業を行う声が聞き取りにくいと書かれていたため、大きな声で話すようにした。	今年度は、授業の内容への興味・感心が高い学生が多く受講しており、シラバスの到達目標に概ね到達できている学生が多かった。	
		心理学演習	今年度は受講する学生数が例年に比較して、多かつたため、受講者の興味、理解度等を知るため。	中間アンケートでは、全体に授業内容に満足をしていることが示されていたこと、とりわけ演習授業を行い、その後のフィードバックに満足をしていることが示されていたため、その内容に重心を置くようにした。	今年度は、授業の内容への興味・感心が高い学生が多く受講しており、演習授業にも積極的に参加し、シラバスの到達目標に概ね到達できている学生が多かった。

教職員氏名	科目名	1. この科目（クラス）を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。	2. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	3. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
ラ 藤堂 隆司	診療情報管理論B (医療法規含む)	授業は、この授業のみ担当。	スライドの説明が少し早いとの意見があつたので、丁寧に説明した結果、全体の95%の学生が「そう思う」と回答した。	授業は、ほぼシラバス通り進めることができた。座学の授業のなかで、できる限り学生参加型の授業に心掛け、毎回の重点ポイントをミニツッペーパーにおいて課題・設問を記入させた。後半には、演習を取り入れることでより業務内容を理解させる工夫をしたことで、95%の学生が「工夫された」と回答した。授業シラバスの到達目標の達成状況では、全体の95%の学生が「達成できた」と回答した。定期試験の成績では、S: 57%、A: 22%、B: 13%、C: 8%となり、受験生全員が合格基準に達した。教室の問題があるが、15回の授業のうち、4~5回の授業は、パソコンを使用した演習を希望したい。予習・復習、課題に当てた時間では、全体の64%の学生が30分未満と回答したこと、授業外の学習の改善を図りたい。
ラ 山田 久美子	調剤請求	調剤請求1科だけ担当のため	・遠くて字が見えないことがある(1件)→ 大きい字での板書を心掛けていたが、更に板書後読み上げるようにした。・線を引く所をもっとわかりやすく言ってほしい(1件)→ 「〇ページ〇行目重要」とアンダーラインを引くように言うことが多々あるが、2、3回復唱するようにした。・線をひくだけでなくノートをとるなどしてほしい(1件)→ 試験はテキスト持ち込みのため、必要なことはテキスト余白に記入することを勧めている。テキストに書くか、ノートに書くかは各自の判断に任せている。・問題を解く時間、練習時間がもう少しほしい(1件)→ 学習内容が多く時間の余裕があまりなかった。前半後半で全員が算定できるような処方箋を解説しながら一緒に算定しレセプトを作成した。	点数改定のためテキストが届くのが遅れ、コピー・テキストでの学習時間が多くなってしまいました。学習しやすい点もありましたが、調剤報酬請求の基本部分は理解できているように思います。ただ、基本算定の部分だけ理解できている人と、基本から応用の算定までできる人の差が大きいように感じます。算定の基本だけでなく、複雑な内容の処方箋まで算定できる学生をひとりでも多く増やし、調剤事務管理士技能認定試験の受験、合格へつなげることが今後の課題であると思います。そのために授業内での演習時間が多く取れるように少しあリキュラムの見直しも必要かもしれません。
ラ 数藤 晶子	テーブルコーディネート &テーブルマナー	中間アンケートを実施することができたため。	3・4限目の授業ということで、できれば講義を一方的に聴く授業だと眠気や集中力が途切れるので、できるだけ参加型にしてほしいとの要望がありました。この授業は、3限目が講義、4限目を実習という形で進めていましたが、3限目の授業においてもできるだけ授業参加型の形式に変えるようにしました。	今回は、履修していた学生が少人数ということで、全員に日が届きやすい反面、授業に対する意欲などに差があり、やはり取り組みなど熱心な学生ほど成績もよい傾向にありました。対面授業を行うことができたので、実習においてもシラバスの内容をほぼ到達できたのではないかと思います。

	教職員氏名	科目名	1. この科目（クラス）を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。	2. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	3. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
ラ	堂東 由佳	色彩の演習 (シルクスクリーン含む)		・油性のインクの臭い対策。→前半は油性インクで授業を行ったが、後半は水性インクで授業を行った。・待ち時間の対策→制作の各工程をスムーズに行えるよう、学生それぞれの制作スケジュールを随時アナウンスした。	シラバスの到達目標には概ね到達したと思われます。シルクスクリーンの技術を修得し、技術の修得を通して、丁寧に作業することや工夫することを学べたのでは、と考えます。また、作品やオリジナルのグッズ、雑貨制作を通して、学生が自分の生活を豊かにする選択肢が増えたら嬉しいです。今後の課題は、さらに「オリジナル」ということに注目し、アイデア出しや、構想の時間をしっかりとるようシラバスの改編を行います。
ラ	能美 智子	医療事務Ⅲ (DPC含む)	担当科目が1科目であるため	前半はコロナが落ち着いていたこともあり、アクティブラーニングとなるよう学生同士のディスカッションや教え合える時間を取りようにしました。中間アンケートでも、黒板に演習問題を書いて一緒に解く形式が良かったらしく、学生自身が黒板に書くことも動きがあって満足度が高かったです。最初は難しく感じていた学生も慣れてきたら自分でもできるという感覚があるようで、率先して当てて欲しいという意見に驚きました。来年も演習に取り入れてみたいと思います。	定期試験の結果やアンケートの解答を見ると、対面授業ができたこともあり予定通りシラバスの到達目標はクリアできましたと思います。自宅学習の時間に関しては毎週小テストを実施しており、医療秘書検定で出題される医療用語の漢字と略語を出題しております。こちらが想定する時間よりも短く、もっと難しくするべきなのか来年度の検討課題です。
ラ	叶 雅夫	子どもの発達 と絵画	ライフ前期はこの授業のみでした。	生徒自身と課題について発想、展開の話し合いを行った。	絵本については、2人しか単位が取れなかつたが、2人は充分目標に達成出来た。
ラ	入野 遥	JAZZ I	より良い授業にするため	換気や扇風機の仕様。	学生がJAZZを楽しいと思っている事は伝わります。しかしその気持ちに技術が追いついていない。今後は基礎の強化と応用を課題とし、雰囲気で踊らずしっかり踊る事を目標とします。
ラ	柳 慎之介	hiphop1	全ての授業で行なっています。	学生のやりたい事にそって授業進めています。	楽しんで踊ってくれる学生はずっときてくれている印象です。
ラ	小西 浩実	病院実習	担当はこの授業のみ。	授業に際しては、毎回シラバスに沿った内容のレジュメを作成して全員配布した。また、毎回その授業内容に対してより理解が深められる様に資料を配布した。	概ね達成している。更に、検討を重ねてより理解を得られる様に研鑽する。
ラ	佐々木 研	ファッションビジネス 概論	学生授業評価アンケートの回答数が多かったため。また、意欲的に受講している学生が多かったため。	一方通行の講義にならないよう、できるだけワークのボリュームを増やして授業を進めるよう設計した。	ファッションへの関心度、授業後半でのワーク等の成果物の完成度、期末テストの内容を総合的に判断し、到達目標は概ね達成できたと考えている。
ラ	黒田 恭史	文書処理演習Ⅱ (Word)	担当者が単独で受け持っている科目が、この科目のみであるため。	できるだけ、理解・操作が困難と思われる個所については、丁寧な説明を心掛けた。	多くの学生が、到達目標をクリアしており、教育的効果がそれなりにあったと考えている。

	教職員氏名	科目名	1. この科目（クラス）を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。	2. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	3. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
ラ	岡本 久仁子	表計算演習Ⅱ (Excel)	もう一クラスはクラス人数が少ないため、こちらのクラスを選んだ。	中間アンケートにおいて、教室の中間モニターが見づらいという声があったが、それについては要望を出すのみで改善はできなかった。授業中の指示の声が聞き取りづらいという指摘もあったので、なるべく声を張るようにした。	おおむね達成できたが、一部、内容を未消化のままで終わった学生もいるようなので、きめ細やかな指導を行いたい。
ラ	田尻 良	情報システム論	自分は授業評価を選んでいない	より積極的に学生の発言を促し、また課題の書き方についての指導を行った	授業に参加する意思が最初から弱い学生を拾いきれなかつたことが悔やまれるが、前向きに受講している学生たちにとって現時点で求められるレベルは概ね達成できたものと考える。今後は「単位をとるだけ」と言って憚らない学生にも、興味を持ってもらう方法を一層考えていきたい。
ラ	杉本 篤史	簿記入門	御校で講義をしている授業が1つだったため	前半は教科書の説明が多かったので、後半は演習を多めに取り組んだ。	全員が簿記の総合問題を解けるレベルには、ならなかつたが簿記の基礎（仕訳、貸借など）についてはほぼ全員ができるようになったと思う。
ラ	中村 勝則	ウェブデザインⅡ	担当しているのはこの科目のみだから。	欠席した学生に対しても可能な限りフォローアップできたよう に思う。 (資料やデータ素材の再配布など)	教育目標は一応達成できたように思う。
ラ	瀬口 昌生	プレゼンテーション 概論	担当科目が本授業のみであるため	PowerPoint作成時は個人作業になるので、巡回回数を増やし、アドバイスを増やすようにした	プレゼンテーションは個人ごとに伸びしろや達成具合が異なるためそれぞれに合わせた指導が求められる。 その点、受講者数が8名と少なかったため、実践を数回多く設けることができ、学生諸氏にとっても有益な情報を提供できたと思われる。 ただし、発表時において、終了時刻が迫った中で実施をしていた学生に対してはアドバイスが駆け足になってしまったことがある。 今後はその点に留意し、余裕をもたせた時間設定で展開するようにしたい。

	教職員氏名	科目名	1. この科目（クラス）を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。	2. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	3. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
ラ	山岡 正弘	カフェプランニング	今年度より担当となった科目であったので、授業を進行しながら毎回口頭で生徒に確認をしながら進める。	① 配布資料の作成を毎回、前の授業進行を確認をしながら進める。② 実習に関しては、生徒の理解度を確認をしながら進める。③ 提出課題は、全体的に旨く進める事が出来ている。	① 座学と実習の割合を現在は均等となっているが、実習の割合を増やすことが必要。② 課題の提出率及び課題の達成度は、予想より良い結果となった。要因としては、実習の興味度が高い為。③ 今後の課題として、実習時間を増やす必要がある。 実質的に個々が実習をしている時間は、約30分程度で後の1時間が準備時間と講師によるデモ及び後片付け時間となる。
ラ	倉津 三夜子	アロマセラピー (演習含む)	担当しているクラスがこのクラスのみであったため。	改善の理由：1名のみであったが、休憩時間が短く、集中力を保ちにくい、という感想を受けて改善の工夫：講義の合間の休憩時間を短くとっていたのを、少し長く設定した。また、通常135分、ときには補講を含め200分を越える設定となる授業時間を講義前半・講義後半・実習に区切り、タイムテーブルを板書し、その表記に沿って授業を進めるようにした。結果：スタート時点から気怠そうにしている学生のほかは、覚醒レベルが上がり受講への積極性と、授業内容への関心度が高まったように感じた。	到達目標として、なによりも安全に”精油”という素材を用い、アロマセラピーを行えることを挙げている。実習を通して理解を深めること、また学生一人ひとりと会話の機会を持つことで、おおむね達成できていると感じる。一方で、講義を聽こうとしない学生、実習も適当にすませる学生に関しては、後半になんでも安全性についての理解が不十分であることが懸念される。具体的には、再三伝えているのにも関わらず、精油濃度を濃くしたり各自の状況や、場合によって使わないのが望ましい精油を使う、といったことがある。課題：より安全に使用することを学ぶため、使用する精油の種類を絞ったほうが良いのか？濃度を低くして、準備しておくのがよいのか？ほかに良い方があるかを検討課題とする。

2022年度後期 「授業評価アンケート」報告書

教職員氏名	科目名	1. この科目（クラス）を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。	2. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	3. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）	
保	合田 誠	卒業ゼミ(合田ゼミ)	通年授業でもあり、1年間受講した学生の評価を確認したかったため。	中間アンケートについてのコメントは、「児童虐待の問題が深く理解できた」や「他のメンバーの意見を聞く良い機会になった」など肯定的な自由記述のみであったため、受講生の指摘に基づいた改善・工夫は行わなかった。 ただ、例年と違って、発表方法の改善を行い、取り組んだ発表方法の有効性が確認できた。 次年度以降もアップデートの意識を常にもっておきたい。	受講生の殆どが、到達目標がほぼ達成できたとの評価をチェックしている。 しかしながら、授業内で実施しているループリック評価については個々人の進捗状況に差違があるのが分かっており、年度内の達成目標の確認作業的な取り組みの必要性を感じている。
保		保育実習指導Ⅲ	2年生最後の実習が新年度より保育現場に出る学生にとって、いかに役立っていたかを検証するために選択しました。	中間アンケートについては、受講生の殆どが改善点等の指摘はなかった。1人のみ課題の多さを嘆く自由記述があつた。その回答に対しては、アンケートの翌週に全体的に返答しておいた。つまり、1年生での実習授業とは異なり、実習に向けて必要不可欠となる基礎知識の確認や課題設定の意味内容を理解修得するために自ずとその内容に見合った課題が出るとの説明をしている。 よって、中間アンケート以降に課題の分量を軽減することはしなかった。	7割以上の受講生からは到達目標を達成できたとの評価を受けた。 しかしながら、逆に殆ど達成できなかった受講生も1割いたのも事実である。 例年苦慮することだが、受講生の理解レベルをどこに置くかによって、到達達成目標評価が変ってくる。 ただ、担当者としては受講生全員が到達目標を達成することを念頭にはおくものの、「質」の確保も必要不可欠となるので、今後も個別対応で取り組んでいきたい。
保	山田 秀江	教育実習Ⅰの事前指導として、学生の達成度を知るため	特に要望がなかったので、中間アンケートの結果から改善したことではないが、具体的で分かりやすいという感想があったので、実践的な内容になるよう心掛けた。	学生の成績とアンケートの結果は類似しており、学生の自己評価と成績がおおむね一致していると考察できる。成績は少し達成できた(70点以上)が受講生の8割になり、多くの学生がしっかりと授業に取り組んでいた結果だと思われる	
保		幼児と言葉 (4・5・6組)	学生が乳幼児期の言葉の獲得について、どの程度理解を深めることができているかを知るため	特に要望がなかったので、中間アンケートの結果から改善したことではないが、実践事例が具体的で分かりやすいという感想があったので、理論的な内容と事例をリンクさせて説明するよう心掛けた。	授業評価アンケートでは97%の学生が少し達成できた・かなり達成できた・ほとんど達成できたと回答しているが、成績では66%と少ない。自己評価よりも実際の理解度が低い学生が3割弱いるということが分かったので、自己評価が適切にできるよう、課題内容やそのフィードバックを工夫したい。
保	鍛治谷 静	子ども家庭支援の心理学 (1・2・3組)	新設されて4年目の科目だが、従来の心理学の領域を超える多様な内容を含み、授業展開に難しさを感じているため。	板書の量が多いとの意見が一部あった。授業で取り扱う内容が多い場合はプリントにできるだけまとめるよう工夫した。	学生の自己評価と成績に大きなギャップはなかった。中間アンケートで授業内容に関心を持てたとの声に励まされたが、後半かなり急ぎ足になってしまったので15回の実施計画のバランスを見直したいと考えている。
保		子ども家庭支援の心理学 (4・5・6組)	新設されて4年目の科目だが、従来の心理学の領域を超える多様な内容を含み、授業展開に難しさを感じているため。	教室が縦に長く、後方席の学生からプロジェクター画面が見にくいくとの声があった。また教室の照明の調整も難しかった。パワーポイントの文字を大きくしたり、コントラストを強めに変えるなど、可能な範囲で改善した。	学生の自己評価と成績に大きなギャップはなかった。中間アンケートで授業内容に関心を持てたとの声に励まされたが、後半かなり急ぎ足になってしまったので15回の実施計画のバランスを見直したいと考えている。

	教職員氏名	科目名	1. この科目（クラス）を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。	2. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	3. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
保	長谷 秀揮	保育実習指導Ⅱ (4・5・6組)	後期の担当科目の中で、この授業は最もと言ってよいほど、授業準備や参考資料等の作成に時間をかけ、そして力を入れている授業科目であるので、教員として学生の評価をぜひ知りたいと考え対象に選びました。	授業のパワーポイントについて、次に進めるスピードが少し速いという意見が若干あったので、要点をノートする為の時間を長めにし、より確実にノートできるように改善・工夫しました。	シラバスの到達目標の達成状況については、授業評価アンケートの学生からの回答によると「ほとんどできた」が10%、かなり達成できた」が33%、そして「少しは達成できた」が50%という結果であり、一定程度は達成できたと考えられる。しかし「あまり達成できなかった」と「ほとんど達成できなかつた」が、合わせて7%という結果については、今後の課題といえる。また「授業で積極的な参加を促すための工夫がされていたか」については、「そう思う」が17%、そして「ややそう思う」が67%という結果であり、授業に対する満足度がある程度高いことがうかがえる。引き続き、授業の質の向上につながるように授業内容、及び方法の工夫改善に取り組み、受講学生の満足度をさらに高めていくことができるよう努めたい。
保		保育実習指導Ⅱ (1・2・3組)	この授業は、後期の担当科目の中で、最もと言ってよいほど授業準備や参考資料等の作成に時間をかけ、そして力を入れている授業科目であるので、教員として学生の評価をぜひ知りたいと考え対象に選びました。	授業のパワーポイントについて、順次送って進めていくスピードが少し速くて書き留めることができず、という意見が若干あったので、ノートする為の時間を少し長めにして確実に要点を書き留めることができるように工夫・改善しました。	学生からのアンケートの回答によると、シラバスの到達目標の達成状況については、「ほとんど達成できた」が79%、「かなり達成できた」が43%、そして「少しは達成できた」が50%という結果であり、かなりの程度は達成できたと考えられる。そして「あまり達成できなかつた」と「ほとんど達成できなかつた」が、共に0%という結果については、一定評価できる結果といえる。また「授業で積極的な参加を促すための工夫がされていたか」については、「そう思う」が29%、そして「ややそう思う」が54%という結果であり、全体として授業に対する満足度がある程度高いことがうかがえる。学生の成績はシラバスの到達目標の達成状況とリンクしたものとなってい。今後の課題として、授業の質の向上につながるように授業内容及び授業方法の工夫改善に引き続き取り組み、受講学生の満足度をより高めていくように努めたい。
保	金川 朋子	特別支援教育総論Ⅱ (3・4組)	担任クラスを含む1.2組の授業を選んだ	授業時の提示スライドの文字を大きくする、強調部分に下線を引くなど、学生からの要望に対応し、記述しやすく理解しやすいように工夫した。 グループワークの意義を事前に説明をし、課題をスマールステップで提示しながら、学生の負担を考慮しながら、授業を進めることを意識した。	事前事後学習への取り組みがもう少し積極的になるよう、今後工夫していきたい。 おおむね多くの学生が到達目標を達成しており、今後さらに工夫をして行きたいと考える。 実習後に、授業で学んだことをさらに深められるように、授業進行を工夫していきたい。 さらに、成績は二極化傾向にあり、如何にして全体の理解度をアップさせるか、小テストや繰り返し学習の工夫などを行っていきたい。
保		スポーツⅡ (1・2組)	担任クラスを含む1.2組の授業を選んだ	授業の前半は、実技、後半は理論の授業であり、学生の満足度も分かれたようだとえられる。 理論の授業では、実技の内容を裏付けるようにしながら、進め、運動の意義の理解を深められるように、実際に行った実技の振り返りや、講義内でも実践を入れながら授業を進めた。	2でも示したが、授業内容が大きく違い、到達目標の学生の自己評価も幅が出たのだと思う。 授業を通して、継続した練習による達成感を学生は感じられたと思う。 次年度は、シラバス（スポーツの授業として変更がある）では、理論と実践・実技の融合をワークシートを導入し工夫していきたい。

	教職員氏名	科目名	1. この科目（クラス）を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。	2. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	3. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
保	千田 耕太郎	幼児と音楽Ⅱ (全クラス)	音楽関係の授業で、1年生全員が履修している授業であり、学生の評価が知りたいから。	中間アンケートの結果を授業前の打合せ時に担当者全員で共有し、改善点については全員に指示をした。 ピアノについて、学生の不安を取り除き、しっかりと励ます。	・1・2組については、72%の学生が「ほとんど到達できた」「かなり到達できた」と回答している。3・4組は66%、5・6組は41%であった。 クラスによって、目標達成の評価が大きく違っているが、はっきりした原因は思い当たらない。 ・より詳しい学生の評価を知るために、自由記述を追加できませんでしょうか ・予習、復習にあてた時間は、どのクラスも多くの学生が「30分～1時間」を選んでおり、より多くの時間をピアノの練習にあててほしいと感じた。
保	木村 美佳	乳児保育Ⅱ (3・4組)	乳児保育Ⅱを選んだ理由は、さらに改善する必要があると考えているからである。 学生が経験としてはんどん関わったことのない「乳児」という存在を、想像的であっても、現実的に、また近接的に理解し実感の持てる授業を開拓していきたいと思い、さらに考察をしていきたい課題として思っている。	中間アンケート結果では、「楽しい」や「体験が多い」などの個人的な意見が多かったため、学生同士の意見や情報を共有することの足りなさを感じ、授業後半は、学生同士がさらに関わるようグループディスカッションの機会を増やしてきた。しかし、授業開始後からのディスカッションタイトルの提示は、直感的な行動性がなく、また授業時間が限られる中では、話し合いが成立しないことがリフレクションから確認できた。そこで課題提示は前もって行った。 学生間で、他の人の意見を聞くこと、自分の意見を言うこと双方の状況をつくることで、学生同士の緊張が減少する傾向があると確認できた。 また当日にディスカッションの内容を提示しても即座に考えられない学生が多いため、プレディクション機能を持たせることと、学生の考察に準備が必要なことから、シートを利用した、ディスカッション内容を告知する必要性を感じた。	シラバスの到達に関しては総合成績からすれば、単位が取得できない学生はいたなかったため、今後もこの方法を継続していくべきと考えている。 この授業は演習であるべく学生がIで学んだ知識を使って、応用した行動ができるようにすることが重要であると考えていた。 シラバス通りの達成度かはわからないが、今後、別な教科でもこの知識やスキルを確認することができるため、引き続き学びが継続できるようなシステム作りをしていきたいと思っている。 このアンケート上ですべての結果がでたわけではないが、授業後に記述しているリフレクションシートには、事前準備があつたディスカッションでの意見交換は有効であったと書かれており、さらなる授業研究や、このような授業アンケートを用いての教員リフレクションが必要だと実感している。
保	森 麻希子	幼児と音楽IV (1・2・3組)	2年生後期に選択可能な音楽の授業であり、これまでの学びを生かしたグループ活動や授業内発表を行ったため。 また音楽の授業としては2年間の集大成であるため。	より色々な楽器に触れ、また学生同士で主体的に取り組めるよう授業内発表を実施。全体やグループ、個人の活動を幅広く取り入れた。 それと並行して、個人レッスンについては、引き続き充実した内容が行えるように留意した。	対象者数:24名 回答者数:19名 回答率:79.2%であった。 学生からの回答結果は以下の通りとなり、成績評価と大まかに一致する形となった。 ほとんど達成=21%、かなり達成=32% 少し達成=47% 実技科目ということもあり達成状況については様々であるが、それぞれに保育現場で必要となるピアノや歌等の表現技術について何らかの学びを達成したと思われる。 この科目は選択授業ということもあり履修者数はそれほど多くはなかったが、その分個々の学生に目を配ることができた。 この数年コロナ渦で実施が出来なかつた授業内発表を行うことができた。学生がより充実した音楽的体験ができるように、これからも工夫をしていきたい。
保		幼児と音楽IV (4・5・6組)	2年生後期に選択可能な音楽の授業であり、これまでの学びを生かしたグループ活動や授業内発表を行ったため。 また音楽の授業としては2年間の集大成であるため。	より色々な楽器に触れ、また学生同士で主体的に取り組めるよう授業内発表を実施。全体やグループ、個人の活動を幅広く取り入れた。 それと並行して、個人レッスンについては、引き続き充実した内容が行えるように留意した。	対象者数:42名、回答者数:35名、回答率:83.3%であった。 学生からの回答結果は以下の通りとなり、成績評価とほぼ一致する形となった。 ほとんど達成=6%、かなり達成=54% 少し達成=40% 実技科目ということもあり達成状況については様々であるが、それぞれに保育現場で必要となるピアノや歌等の表現技術について何らかの学びを達成したと思われる。 この科目は選択授業であるが、多くの学生が履修しグループ活動についても充実した内容を行うことができた。 この数年コロナ渦で実施が出来なかつた授業内発表に取り組むことができたため、学生がより充実した音楽的体験ができるように、これからも工夫をしていきたい。

	教職員氏名	科目名	1. この科目（クラス）を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。	2. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	3. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
保	香月 欣浩	幼児と図工 II (1.2組)	教職科目のなかで、造形表現を扱う重要な授業と捉えているから。	授業を円滑に進めるための配布物のタイミングの変更	到達目標をほぼ達成した学生が52%であった。今後は15回を通しての目標と毎時間の目標をさらに明確にして、振り返りを含めた計画と実施を行なっていきたい。
保		幼児と図工 II (3.4組)	教職科目のなかで、造形表現を扱う重要な授業と捉えているから。	・授業を円滑に進めるための配布物のタイミングの変更 ・材料などを置く場所の工夫 ・子ども理解を深めるための視聴覚教材の利用	中間アンケートを基に授業改善を行なったためか、目標達成状況が77%と高かった。やはり学生からのアドバイスを真摯に受け止め、良いものは改善していくことを次年度も続けていきたいと思う。
保	阪野 学	子ども家庭福祉 (4・5・6組)	子ども家庭福祉の2つの授業の内回答率が69.2%と高く、学生の声がより多く反映されていると考えこちらの授業を選んだ。	授業内容の習熟と文章力の向上を目的に毎時間課題としてシャトルシートを課している。学生の中にはシートの提出が負担であるとの声もあったがアンケート結果から学生が予習・復習及び課題に当たる時間は、30分未満が19人、30分～1時間が14人、1～2時間2人、2時間以上1人となっており17/36(約47%)の学生が30分を超えていたが、後の約52%は30分以内であった。そのことからそれ程学生に大きな負担はないと確認することができた。今後も継続して行なっていきたいと考えている。 また、毎回のシャトルシートに学生の要望を記載させその都度改善の取り組みを行なってきた。そのためアンケートには平素の授業で要望に対応しているため取り立てて特筆されるものはなかった。 シャトルシートの学生の要望には必ず次の授業から取り入れて対応をした。どうしても対応できない場合についてはその理由について説明を行なった。 要望の例としては、パーワーポイントの見やすさ、後半時間が無くなり授業が駆け足になる、マイクの音量などについて要望があったので配慮して改善に努めた。	既述の通りシャトルシートの活用により課題の提出及び再提出をさせ学生の学びを深めさせると同時に学生の学外学修時間の確保することに努めた。そして、約87%の学生が及第点として評価することができた。そして、13%の学生が再試験を受ける結果となり最終的に2名の学生が再試験のレポート等の提出が十分でなく単位を認めるに至らなかった。評価の平均点は73.1点であった。 また、アンケート結果からは25名約74%の学生が達成できた(少し～ほとんど)と回答し、9名約24%の学生が達成できなかつた(あまり～ほとんど)と回答した。1/4の学生の学生が到達目標に届かなかったことについて謙虚に受け止めなければならないが、概ねシラバスの到達目標の達成はできたと判断することができる。 今後の課題としては、初回のオリエンテーションでシラバスの到達目標と学外学修時間の確保についての丁寧な説明を行うと共に毎回のシャトルシートにおいて学生の要望を聞き改善に努めていきたい。
保		子育て支援 (3・4組)	子育て支援の3つの授業の内回答率が80.6%と高く、学生の声がより多く反映されていると考えこちらの授業を選んだ。	授業内容の習熟と文章力の向上を目的に毎時間課題としてシャトルシートを課している。学生の中にはシートの提出が負担であるとの声もあったがアンケート結果から学生が予習・復習及び課題に当たる時間は、30分未満が13人、30分～1時間が11人、1～2時間5人、2時間以上0人となっており16/29(約55%)の学生が30分を超えていたが、後の約45%は30分以内であった。そのことからそれ程学生に大きな負担はないと確認することができた。今後も継続して行なっていきたいと考えている。 また、毎回のシャトルシートに学生の要望を記載させその都度改善の取り組みを行なってきた。そのためアンケートには平素の授業で要望に対応しているため取り立てて特筆されるものはなかった。 シャトルシートの学生の要望には必ず次の授業から取り入れて対応をした。どうしても対応できない場合についてはその理由について説明を行なった。 要望の例としては、パーワーポイントの見やすさ、後半時間が無くなり授業が駆け足になる、マイクの音量などについて要望があったので配慮して改善に努めた。	既述の通りシャトルシートの活用により課題の提出及び再提出をさせ学生の学びを深めさせると同時に学生の学外学修時間の確保することに努めた。そして、約86%の学生が及第点として評価することができた。そして、14%の学生が再試験を受ける結果となり最終的に1名の学生が再試験のレポート等の提出が十分でなく単位を認めるに至らなかった。評価の平均点は78点であった。 また、アンケート結果からは28名約97%の学生が達成できた(少し～ほとんど)と回答し、1名約3%の学生が達成できなかつた(あまり～ほとんど)と回答した。概ねシラバスの到達目標の達成はできたと判断することができる。 今後の課題としては、初回のオリエンテーションでシラバスの到達目標と学外学修時間の確保についての丁寧な説明を行うと共に毎回のシャトルシートにおいて学生の要望を聞き改善に努めていきたい。

	教職員氏名	科目名	1. この科目（クラス）を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。	2. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	3. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
保	山崎 久子	在宅保育 (4・5・6組)	4.5.6.クラスが比較的授業態度も落ち着いていたので、こちらのクラスを選択いたしました。	中間アンケートにて求めたコメントには「この科目の必要性を感じない」「知っている内容の繰り返し」「退屈だ」という厳しいものがあり、「在宅保育」の特性と集団保育の共通性に着目し、より実践的な内容としてあやとり、おりがみ、自由描き、DVD視聴等を取り入れました。テキスト内容の質疑応答だけでなく、個人の意見のまとめからグループ討議をし、黒板での板書発表による他の意見の共有もいたしました。	中間アンケート以降の最終アンケートでも積極的な参加を促すための工夫で「あまり思わない」という回答があり、試験監督の経験により、内容の再考察の必要性も痛感いたしました。テキストの内容に沿ったシラバスの検討、具体的な授業内容の考察、学生がより参加しやすい展開等、課題は山積しております。もう一度、自らが学ぶ姿勢を課して取り組む所存でございます。在宅保育は保護者との会話は不可欠であり、「このような状況ではどのような言葉かけをされますか」と初回から課題提出を依頼ましたが、ほとんどの学生が内容に適した会話文だったことは諸先生方のご指導と2年生後期になっての実習の成果と感心いたしました。
保	山田 千枝子	指導法の研究 (全クラス)	1科目のみなので、2クラスにアンケート調査をしました。	マスをしていると聞き取りにくいところがあるということで、マスクの種類を検討しました。 聞き取れているのかを確認しながらいました。 ゲストスピーカーを何人か呼んで話を来てもらったことが、好評でした。内容は卒業生の1年目の先生・男性保育者・公立の先生など現場での実践の話を中心にしていただきました。質問も多々ありました。	アンケートよりシラバス到達はわかりにくかったです。
保	小川 健二郎	社会的養護 I (1・2・3組)	非常勤として、受け持っているクラスすべてに実施。	基本的に毎回の授業の反応や、対話を通じて参加型の授業を目指しているが、中間アンケートで出てきた内容の改善としては、教科書の画像をパワーポイントで前に表示する際に、ページ数が見えにくいということで、別でテキスト表示をしてほしいというニーズに対応したことなどがあげられる。	概ね良好と捉えている。資格試験に合格するレベルの知識を身につけさせるとても、社会人になり現場でいかに即戦力として働けるかという力をつけてほしいという思いを伝えている。そういう意味では、日々のレポート提出やテストでの記述について、誤字の多さは課題を感じる。
保		社会的養護 I (4・5・6組)	非常勤として、受け持っているクラスすべてに実施。	基本的に毎回の授業の反応や、対話を通じて参加型の授業を目指しているが、中間アンケートで出てきた内容の改善としては、このクラスではないが、教科書の画像をパワーポイントで前に表示する際に、ページ数が見えにくいということで、別でテキスト表示をしてほしいというニーズに対応したことなどがあげられる。	概ね良好と捉えている。資格試験に合格するレベルの知識を身につけさせるとても、社会人になり現場でいかに即戦力として働けるかという力をつけてほしいという思いを伝えている。そういう意味では、日々のレポート提出やテストでの記述について、誤字の多さは課題を感じる。
保	瀧谷 みどり	英語(英会話B) (1・2組)	同じ授業の最初にあたり、その反応を知りたいため。	声が聞こえづらい部分がある点は、なるべくマイクを使ったりして対応した。 授業の進捗が遅いとの意見もあったが、大半が遅めの方がよかったため、ここはペースはそのままに、ちょっと時間がかかりそうな活動をいれるようにした。	テキストを最後まで使い切り、達成感ができるようにし、e-learningも反復しても大丈夫な配慮をしたので最後まで達成した学生が多く、到達目標の達成感につながったのではないかと考える。 苦手意識のつよい学生が多いので、今後も学生のレベルにそって授業スピードをあわせたり、達成できそうな目標を課題にして自然に反復練習をするような活動を取り入れていきたいと考える。
保	竹歳 賢一	情報機器演習 (1・2組)	3クラスの中で平均的なクラスだからである。	説明の速度が早いなどの意見があつてので、学生の演習の進捗状況を確認しながら説明をするように心がけた。	シラバスの到達目標の達成について、ほぼ全員が達成的回答であったが、この授業の予習・復習および課題に当てた時間がほとんどの学生が30分未満であった。原因としては情報機器が短大の授業中ののみの使用環境であったことが挙げられる。今後の課題としては演習授業の特性も踏まえ予習・復習の工夫を行いたい。

教職員氏名	科目名	1. この科目（クラス）を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。	2. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	3. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
保 長谷 範子	保育者論 (1・2・3組)	2限空きコマ後の3限で、学外でお昼を過ごし駆け込みで出席する学生が多かったです。そのため、出席を取った後にテキストを取りに行ったり、トイレに行く学生が多い、また、机に伏せて寝る学生が半数を優に超える状況などが見られ、授業態度について注意を促す事が重なり、それに対して、「(講義という)古い授業をするから学生が寝る」「テキストの穴埋め問題を作ってやらせれば寝る暇はない等の反論がありました。 保育者として、子どもの主体性を育む関わりについて考える機会とも考え、このクラスをアンケートの対象としました。	パワーポイントの内容について、テキストの該当するページ数を各スライドで明示していましたが、ページ数だけではそのページのどこにあるのか探すだけで時間がかかり、授業の進行に追いつかないということだったので、行数も入れるようにしました。また、穴埋めを要望する意見も継続して見られたので、テキストのキーワードを意識しながら授業を受けることができるよう、キーワードを具体的に示し、授業内でマークすることを促すようにしました。	アンケートの結果から、手ごたえがあった学生も一定数いたのだと理解しました。授業内の確認テストでは、「覚える」内容が示されて初めて取り組む意欲につながる学生が多いため、基本的な保育の捉え方については「正解がある」内容について実施し、学生自身も達成感が感じられるようになりました。その部分については多くの学生がまじめに取り組んでいたと思います。個々の学生が保育者像について考え、自身の保育者像を創ってほしいと考えますが、「考える」ことについてはまだ1年次の学びであり、保育者論の授業を機会として、今後の実習等を経て深めていってほしいと期待しています。
保 馬場 住子	保育内容総論 (3・4組)	学生の授業への取り組みにおいて、熱心さが感じられるクラスであったことから、授業評価に対しても真摯な回答が得られると感じたから。	パワーポイントを見やすく(色や文字の大きさ等)し、今講義しているテキストの箇所を細かくアナウンスするようにした。また、演習ができることがよいと感じている学生がいることから、意欲的に取り組めるよう演習内容の紹介の仕方等を工夫した。 アンケートでは83%の学生が中間アンケートで出された学生の意見、要望に対する取り組みが見られたと答えていた。	アンケート結果では積極的な参加を促す取り組みがなされていたかについては75%の学生なされていましたと答えていました。本授業では、課題の発表やグループワークや話し合いの機会を十分設けたと受け止めていたが、25%の学生はあまり思わないと答えていることから、今後改善する必要があると感じた。 個々の授業の到達目標の達成度については92%の学生が達成できたと答えていることから、おおむね達成できたと受け止めている。
保 堀口 節子	教育相談 (3・4組)	他のクラスより、授業評価アンケートの回答率が一番高かったから。	アンケートの結果、PowerPointの字が小さくて読みづらい、授業中に記入してもらう練習問題の解答する時間が短い、説明が早口で聞き取りづらい時がある等の指摘を受けた。そのため、字を大きくし、説明はゆっくりしゃべるように心がけ、練習問題の解答する時間を長めに取るように改善した。	アンケートの結果は、問1中間アンケートで出された意見・要望等の取り組みは90%の学生が「そう思う。ややそう思う」と回答をしており成果が見られたと思う。 問2授業の工夫は、85%の学生が「そう思う。ややそう思う」と回答をしており評価は得られたと思うが、今後もっと現場で役に立つ内容を分かりやすく伝えて行きたいと思う。 問3シラバスの達成目標の評価は71%の学生が「かなり達成できた」と回答をしており一定の評価は得られたと思うが、学生が楽しく学習でき現場で役立つような授業を今後も考えて行きたいと思う。

	教職員氏名	科目名	1. この科目（クラス）を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。	2. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	3. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
ラ	工藤 真由美	教養の文学	教養科目で選択科目であるため、学生の選択にどれくらい応えられた科目になっていたかを知りたかったことと、一般に学生の文学離れといわれる中で、自ら選択した学生がどれくらい文学に対して興味を示したかを客観的に理解したかったから。	中間アンケートでは教室の空調に関する要望(温度管理)のみ2件。授業開始前に教室を訪れ、温度調節をあらかじめ事務に依頼するなどした。学生からは好評であった。	到達目標に90%以上到達したと回答した学生が40%、到達目標に80%以上到達したと回答した学生が40%、さらに、到達目標に60%以上到達したと回答した学生が20%であった。この数字は、学生の成績と完全に一致する。成績上位者ほど授業満足度が高く、アンケート以外の日々の授業後のミニツヅペーパーからも興味深いコメントが寄せられていた。今後は不本意ながら授業を選択した(文学を読んだりそれに対する深い考察は不得意だが、授業を選択した)学生の学習効果と満足度との相互向上を目指したい。
ラ		くらしと教育	今年度新たに導入した新規科目であったため、学生のニーズ、学修成果との関係、満足度などを総合的に理解したかったから。	検索に使用するパソコン教室のパソコンで、パソコンの立ち上がりに大変時間がかかり改善をという要望があったため、あらかじめ休み時間に電源を入れておくなどの工夫をした。	到達目標に関しての自己評価が70%以上の達成と回答した学生は、下方気味に自己評価を行っている。実際には80%以上の成績を修めている。また、シラバスでは学外学習時間について、1時間以上求めているのに対して、学生の回答では30分以下となっており、そのことも自己評価を下方気味にした理由の一つと考えられる。その分授業内での集中した学習が、時間外学習の不足を補い、成績向上に寄与したとも考えられる。今後は学生のそのような授業と授業外での行動に関しても、理解しフィードバックするなどして、学修成果(成績)と到達目標の達成状況(自己意識)の乖離を埋められるように努めたい。
ラ	伊東 めぐみ	医師事務作業補助実務 演習	今年度新たに担当した科目のため、授業担当者としてもさまざま面で試行的に実施せざるを得ない部分があった。その授業内容を、受講生がどのように感じたかについて、授業評価アンケートによって受講生の声を聞き取り、次年度の授業内容に反映させていきたいと考えたため。	中間アンケートの結果としては、改善・工夫が必要な内容について記載されていなかったが、「パワーポイントの文字が見やすい」「授業の進行速度がちょうどよい」「書き込み形式のプリントがわかりやすい」などのコメントがあったので、このコメントの内容については念頭において、次年度も引き続き行っていきたいと思う。	授業評価アンケートの「この授業のシラバスに示されている到達目標をどの程度達成できたと思いますか。」の設問については、「かなり達成できた(80~89%)」と解答した学生が19名中10名で一番多かった。対して成績は、22名中、秀(90~100)3名、優(80~89)7名、良(70~79)7名、可(60~69)2名という結果であったことから、学生は概ね自分の成績を的確に自覚していると考えられる。また、到達目標に掲げている内容を中間、最終テストで出題しているため、8割以上の学生が目標に到達した学びを得られたと考える。今後の課題としては、この科目は「実務演習」であるため、更に実務に即した演習内容を取り入れ、より実務で活用できる内容にしていきたい。
ラ		医療事務 II	前期「医療事務 I」の内容を引き継ぎ、更に高度な内容を学んで診療報酬請求業務の内容を一通り終えることができる科目であるため、医療事務エリアの学びの要素の中で重要な位置を占めている科目である。受講生が授業内容をどのように感じているのか、学びの難易度についても知っておきたいと考えたため。	中間アンケートでは、改善・工夫が必要な内容が記載されていなかったが、授業を行って感じたことは、請求業務の演習という要素が強いて、理論の説明も必要だが演習の時間をさらに多く取る必要があるということだった。実際にやってみるということがこの授業の内容としては重要な点であると感じた。	「この授業のシラバスに示されている到達目標をどの程度達成できたと思いますか。」の設問については、「すこし達成できた(70~79%)」が27名中11名で一番多かった。次に多かったのは「かなり達成できた(80~89%)」で7名。対して成績は、31名中、一番多かったのが、不可(59以下)13名、次に可(60~69)12名という結果であり、ほとんどの学生が学修目標に到達していないという結果であった。学生の自覚している目標への到達度と、実際の成績では乖離がみられた。この科目は理論を理解し授業ごとに理論を積み上げていくが、出席率が低いことから、欠席することによって理解することが難しくなっていると考える。出席率を上げる工夫が必要であると感じた。

	教職員氏名	科目名	1. この科目（クラス）を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。	2. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	3. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
ラ	中川 玲子	子どもの食と栄養	保育士養成必修科目であり、受講人数の比較的多いクラスであるため。	中間アンケートでは、改善点が挙げられなかつたものの、実習への期待が高かったため、実習指導に力を入れ、工夫した。	シラバスの到達目標の達成状況については「ほとんど達成できた」と「かなり達成できた」の回答率合計が60%であった。また「少し達成できた」が40%であった。今回は、中間アンケートで改善要望が出されなかつたが、今後、学生の感じるシラバスの到達目標の達成度をさらに上げるため、中間アンケートで改善要望が出されるくらい、授業への興味や関心度を高め、だされた要望に応えることを今後の課題としたい。
ラ		食の科学A	新しい教材の導入に伴い、講義の進め方も一部変更したので、学生の学修状況や到達目標達成度を知るため。さらにそれをもとに次年度の授業計画の改善につなげるため。	中間アンケートでは殆ど改善要望はなかつたが、学生の理解を深めるために、講義内容と、新しく導入した教材との関連について丁寧に説明した。	程度の差はあるが「達成できた」と解答した学生の割合は63%、あまり達成できなかつたと回答した学生が25%、ほとんど達成できなかつたと回答した学生が1名であった。さらに授業改善に取り組み、学生の感じる「シラバスの到達目標達成」度をアップすることが課題である。
ラ	安谷 元伸	情報倫理	多様な内容と演習、座学のハイブリット型の授業形態で進めているため、学生達の評価、反応を把握し、今後の授業の進め方に反映させていくため。	中間アンケートでは改善についての希望や要請が見られなかつたが、感想に「眠くなる」との意見が2点見られたため、以降の授業では演習の内容を充実させた。	授業評価アンケート「問4この授業のシラバスに示されている到達目標をどの程度達成できたと思いますか。」の結果は、ほとんど達成できた8%、かなり達成できた46%、少し達成できた31%、あまり達成できなかつた15%、ほとんど達成できなかつた0%であった。達成できたと感じる学生が80%を超えており、授業としてシラバスの到達目標を一定果たすことができたものと考える。一方、2名の学生が「あまり達成できなかつた」と回答しているため、次年度以降は確認や振り返りの時間の充実に努め、達成できたと感じる学生の割合の向上を図りたい。
ラ		ウェブデザイン I	HTMLという学生が日常的には利用しない言語記述を伴う授業であるため、学生達の理解度や反応、感覚を確認して次年度以降の授業進行につなげていきたいと考えたため。	中間アンケート「授業で改善してほしい点」では、難しい、先週の復習をしてほしい、ゆっくりしてほしい(2名)との意見が見られたため、取り組む課題内容を先週の復習を軸とした題材を多く取り入れて進めるようにした。	授業評価アンケート「問4この授業のシラバスに示されている到達目標をどの程度達成できたと思いますか。」の結果は、ほとんど達成できた12%、かなり達成できた53%、少し達成できた24%、あまり達成できなかつた12%、ほとんど達成できなかつた0%であった。達成できたと感じる学生は90%近くとなっており、学生にとっては非日常的であろうHTMLやCSSという言語を用いる授業としては受講者の大半が到達目標に至ることができたと考える。そのため、「あまり達成できなかつた」との回答した学生をさらに減少できるよう、次年度以降も復習が行える課題構築等の充実に努めていきたい。
ラ	赤田 太郎	カウンセリング演習	実践形式のワークショップが多いため。	中間アンケートの結果そのものに改善することを要望する内容がなかつた。	多くの人が、達成できたという結果だったので、このワークショップ形式を継続してこうと考えている。
ラ		臨床心理学	知識を詰め込むための検定対策として位置付けているため。	当初は問題を解きながら説明していく形で講義を進めていたが、理解が進んでいないようだったため、ポイントを講義して説明してから問題を解く形式とした。	その改善がよかつた人と、よくなかった人に二分しているようだった。うまく理解できた人は点数が伸びるが、一方で、できない人は全く点数が伸びなかつた。今後の課題としては、理解の目線を下げること、社会人のストレスの前に社会人について学ぶようにしていきたいと考えている。

	教職員氏名	科目名	1. この科目（クラス）を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。	2. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	3. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
ラ	河合 真知	ビジネス総合演習	本科目は、ライフデザイン総合学科ビジネスエリアの演習科目であり、前期設置の「ビジネス実務演習」で習得したビジネス実務の基本的な能力を、より発展させ、実践力を身に付ける科目であるため、授業評価と成績との関係の検証が必要だと考え、対象とした。	中間アンケートで、「前で提示するPPTが、模擬問題提示の際、見辛い時がある」とのコメントがあった。この学生コメントのPPTで映す模擬問題は、学生各自が持つテキスト内に掲載されている問題であり、個人の手元で確認できるものである。教員としては、場所確認程度の目的で映していた。しかし、このコメントを受け、場所確認のみを目的とした提示であっても、気になる学生がいたり、テキストを忘れた学生もいることを認識し、見やすさをより心掛けた。	「積極的な参加を促すための工夫（質疑応答、課題の発表、グループワーク、コメントペーパーなど）がされていましたか。」に対し、83%が「そう思う」、17%が「ややそう思う」と回答しており、授業評価として一定の結果であったと考える。また、成績面でも、「秀」31%、「優」46%、「良」23%と全体的に好成績となつたことは、一定の学習成果もあったと推察する。
ラ		接遇研修	本科目は、ライフデザイン総合学科ビジネスエリア科目の中でも、販売職の接客・接遇業務の技能習得に力を入れた科目であり、1、2年生が混在する授業であったため、学年による評価を比較したく、報告対象とした。	中間アンケートでは、「少人数のため、接遇演習で丁寧な指導を受けることができてよい。」などのコメントはあったが、改善を求めるコメントはなかった。	1年生3名、2年生2名の履修であった。2年生は就職活動と重なることが多く、両名とも欠席が続くことがあった。その結果、課題提出も遅れがちとなる傾向が見受けられ、「シラバスの到達目標をどの程度達成できたか」について、「あまり達成できなかつた」と回答した学生が1名いるのではないかと推察する。 一方、1年生は、「サービス接遇検定」の受験も視野に入れて履修している学生達であったため、それぞれの目標級に応じた自宅学習の時間となっていると推察される。検定受験の有無にかかわらず、授業として到達目標としている「サービス接遇検定準1級の資格取得レベルの接遇力」は身に付けたいえる、授業内のロールプレイング実習の評価であったこと等から、全員が良以上の評価となっている。
ラ	久保 覚司	医療事務コンピュータⅡ	本科目は、学生が課題に取り組む方式であり、それぞれの考え方を聞きたかったため。 学生によって、理解度の高低差があり、各々考えている不満点を理解したかったから。	理解度の低い学生は「課題が多くすぎる」「課題提出締め切りまでが短い」、理解度の高い学生は「少なすぎてつまらない」「もっと出題してほしい」というものだった。 そこで改善点として、以下の2点を行った。 1. 課題の削減 これまで1回の講義で2～3問出題していたが、1～2間に減らした。 これで課題提出締め切りを守れる学生が増えたが、一方で理解度の高い学生が講義中に雑談（すぐ終わってつまらないため…）をするようになってしまった。 2. 課題が終了した学生に対してハイレベルな課題の配布 理解度の高い学生に対して、検定試験等で用いられる問題を解かせるようにした。 これによって雑談は大幅に減ったと感じている。	概ね達成できたと考えている。 特に、小テスト（確認テスト）を複数回行うことで、学生各々の理解度を測ることができ、机間巡回の際の指導方法に役立った。 また空き時間を作り、電子カルテシステムの入力についても説明する機会をつくることができ、医師事務作業補助者の業務の理解に繋がったのではないか？と考えている。 一方で、アンケート結果に『中間アンケートから改善されていない』を選んだ学生が1名いた。 推測では、中間アンケートで『課題が多くすぎる』を選んだ学生だと思われるが、、、これ以上の課題削減は困難であり、達成目標のクリアは困難である。 次年度に向けて、どのような計画とするかしっかりと考えたいと思う。
ラ		ウェブプログラミング演習	アンケートを取ることで、学生の不満点等がみつかり、改善につながればと思い選択した。	『面白い』『わからなかつたらすぐ来てくれる』というものが多かった。 一方で『途中で説明が変わってしまい、意味がわからない』という意見が1件あった。 これは、『こここの色は赤で塗ってみるね。みんなできた？じゃあ次にそこを自分の好きな色に変えてみて。』と説明したところかと思われます。 操作の自由性を高めるために『自分の好きな〇〇で～』という説明をしていたが、『さっきまで赤だったので、何で色が変わったのか？』と感じたのではないかと考えています。 それを複雑に理解する学生がいたため、アンケート後にそのような説明をなくした。	概ね達成できたと考えている。 想定では、本科目はウェブデザインを少々理解した学生が発展目的で履修すると考えていたため、当初の想定から内容や進捗を変更した箇所があるが、最終的には到達目標まで達した。 今後の課題としては、もっと実務寄りの内容についてカリキュラムに取り組みたいと考えている。 特に本科目は『説明したまま入力させる（丸写し）』というのは学生の成長に繋がらず、やってはいけないと思っている。 今年度の経験を活かし、次年度は『学生が楽しみながら実務的な知識をつける』ことに注力したい。

	教職員氏名	科目名	1. この科目（クラス）を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。	2. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	3. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
ラ ラ	吉井 珠代	介護概論	超高齢社会に突入した日本にとって、「介護問題」は決して“他人ごとではない課題”なので、当該授業を、「身近な家庭問題として認識してほしい」「介護行為は、忌み嫌うばかりでなく創意工夫で誰もが容易に実践可能なこと理解してほしい」と願い、授業を組み立てている。その狙いが達成できているかを検証するため。	・ほぼ毎時間使用している視聴覚教材が「分かりやすく良い」という記述が多かったので、まず、「視覚環境を改善させる目的で席替え」を行い、視聴覚教材を見やすくさせた。 ・上記と同じ理由で、「授業への積極的参加」を促す目的で、中間アンケート実施以降の授業では、ほぼ毎回、「アクションペーパー（学びの振り返り）」の記述を求めた。	今年度の授業では、昨年度の授業内容より伝える知識を若干絞って伝えたところ、「学習成果確認」として、今回の授業評価アンケートにおいて、学生が自己採点しているのとほぼ同じ程度の成績評価（中間テスト2回および最終試験）をすることができたと考える。次年度については、今年度と同様の内容で実施する計画であるが、さらなる学習成果の上昇を目指して、中間テストの実施時期については1～2回前倒ししようと考えている。
ラ ラ	岡本 久仁子	文書処理演習Ⅲ	担当しているクラスの中で一番人数が多いから。	中間アンケートでは、授業が進むのが時々早いという意見が一人からあった。 アンケート後は個々のペースに合わせて授業を進め、個々の質問に答えるようにした。 また、新しくなったコンピューターは立ち上がるのが遅い、という苦情も一人あったが、これについては、大学に伝えた、とだけ答えた。	みな前向きに課題に取り組み、全員が単位をとり、それぞれの目標を達したと思われる。
ラ ラ	叶 雅夫	くらしと陶芸	課題に沿い自ら考えて制作する授業で、むつかしさと楽しさを体験できる授業だから。	わかりやすくきめ細かく説明するように心がけた。	すべての学生の作品が失敗なく出来上がり、窯出しの時歓喜の声が上がっていた。達成出来たと思う。
ラ		インテリア論	座学ではあるが、クリエイティブな頭の使い方や、立体について文章で表現するのが必要な教科だから。	写真を見ながら、建築物や間取りについて詳しく丁寧に説明した。	建築物や部屋は、どのように考えて作り上げていくのかを理解できた。
ラ ラ	松谷 治代	製菓演習	唯一の担当授業であったため。	授業のスケジュール上、中間アンケートが授業最終となったため、アンケート結果を本期の授業に活かすことはできなかった。	アンケートの結果、学生の授業に対する満足度は高く、また新しい内容が学べたようでした。 提出してもらったノートの内容も素晴らしく、シラバスの到達目標をほぼ達成したように思う。 今後も、この高評価に甘んじることなくより良い授業を目指したいと思う、
ラ ラ	山岡 正弘	フードマネージメント メニュープランニング	担当講師であるため。	パワーポイント及び身近の出来事を例にして説明をし、学生より意見を受ける。	出席率の高い生徒と欠席の目立つ生徒では、成績の違いが歴然と出ている。
ラ ラ	佐々木 研	ファッショングビジネス 実務	受講学生が非常に前向きに積極的に受講していたため。	座学中心ではなく、ワーク形式を多く取り入れより動きのある授業へ。	提出課題のクオリティも高く、内容理解も含め到達目標を十分に達成できたと考えている。
ラ		ファッショングビジネス 総合演習	受講学生が非常に前向きに積極的に受講していたため。	基本的にはワーク形式メインの授業へ。	提出課題のクオリティも高く、内容理解も含め到達目標を十分に達成できたと考えている。 また、前期のファッショングビジネス概論・演習、後期のファッショングビジネス実務・総合演習をすべて履修した学生（1年生）たちからは、さらに上級レベルの授業を作つてほしいという要望もあった。

	教職員氏名	科目名	1. この科目（クラス）を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。	2. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	3. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
ラ	笹部 建	メディア論	該当授業が貴学での唯一の担当授業のため	教科書の使用目的を期末レポート執筆の課題を中心に構成しなおした。	朝1の授業という事もあり、学生の出席状況は良くなかったが、受講生には視聴覚資料を用いた授業形式は好評だった。 今後は、映像を見るだけの受け身に学生がならないよう、なるべく授業内課題やディスカッションの時間を増やしていくたい。
ラ	閔 宏美	食からの健康美 インナービューティー	2022年も「食からの健康美～インナービューティー～」の講義を担当させていただいているため。	2022年後期も大変お世話になり有難うございました。この講義は、人生において生涯関わる「食」について学ぶ講座です。一つ一つの食材の持つ栄養価や、旬のもたらす食材の意味、そして効果倍増の食べ方など、それぞれの環境や生活に寄り添った形でお伝えすることがとても重要だと思いました。ですので、より生徒とのコミュニケーションをはかり、お一人お一人が生活の中で取り入れやすい方法を探ることを大切にしてきました。	シラバスの内容につきましては、講義形式と実践形式、さらに最終講座のプレゼンテーションも含めてまして、かなり達成できたと思います。最終講義のプレゼンテーションでは、各々が思う商品開発について、自分が掲げるテーマを軸に、しっかりと個性が際立っていることがとてもよかったです。（欠席者過多の学生は学修成果に響いてしまうことがとてももったいないと思いました。今後は、その部分も含め、しっかりさらに声がけをしていきたいと思っています。）
ラ	中村 勝則	ウェブデザイン演習	唯一の担当科目であるから。	個々の学生の演習の遂行状況についてより細かなアドバイスをするようにした。	概ね達成できたように思います。
ラ	数藤 晶子	食空間のデザインと演出	中間授業評価アンケート結果が、全員分回収できたため。	良い点として、今まで知らなかった知識を得たり、食についての興味を持つことができたなどの意見があったので、より理解しやすい資料を追加した。授業あまり聞いていない学生がいたので、何回も同じ内容を繰り返すことが気になる学生があり、回数を減らすように心がけた。授業を欠席した学生も含め、理解ができていない学生には、個別に対応するようにした。	授業の出席回数が格段に多くなり、あまり授業を聞いていない学生は、到達目標に達しておらず成績もあまりよくない傾向だった。反対に授業の出席率が高く、授業を比較的聞いている学生は、到達目標に達しており成績にもつながっていた。前者と後者の差が激しく、特に前者の学生にどのように対応するのか今後の課題である。
ラ	瀬口 昌生	プレゼンテーション演習 (PowerPoint)	本授業のみが評価対象であるため。	実施するプレゼンテーションのテーマについて、教員の一存ではなく、受講者全員とのディスカッションを経ることにした。それによって資料作成の方向付けが明確になり、意欲も出たと感じる。	受講者人数が少數であったことで、教員のフィードバックに時間をかけることができただけでなく、受講者同士の意見交換も十分に時間をとれた。故に到達目標に掲げた点は、よい地点に着地できたと感じる。
ラ	黒田 恭史	文書処理演習Ⅱ (Word)(A)	非常勤として2クラス担当しておりますので、両方のクラスを対象としました。	個々の学習者の進度が異なりますので、それを踏まえて個別の対応を強化するなどして改善を加えました。	ほぼシラバスの到達目標について達成することができたのではないかと考えている。 ただ、少数の学生にはさらに個別対応が必要であると感じたので、今後の改善につなげていきたい。
ラ		文書処理演習Ⅱ (Word)(B)	非常勤として2クラス担当しておりますので、両方のクラスを対象としました。	個々の学習者の進度が異なりますので、それを踏まえて個別の対応を強化するなどして改善を加えました。	ほぼシラバスの到達目標について達成することができたのではないかと考えている。 ただ、少数の学生にはさらに個別対応が必要であると感じたので、今後の改善につなげていきたい。

	教職員氏名	科目名	1. この科目（クラス）を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。	2. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	3. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
ラ	西村 恵子	オフィスマネジメント	単独で担当している科目であったため。	学生の学力や意欲にバラツキがあったが、少人数であったため一人一人に目を配り、個別に対応しながら進められた。また、社会経験のない学生にとって理解しにくい内容も多く含まれていたため、PPTや資料を活用し、できる限り多くの経験談や事例を紹介しながら授業を行った。 中間アンケートでは良かった点として授業のわかりやすさがあげられており、引き続き上記の取り組みを継続した。 改善点は特にあげられなかつたが、前半(第1～9回)に座学で得た知識を実践するために後半(第10回～第15回)では実技、ワーク、グループディスカッションなどを中心に行い、動きのある授業を実施した。	学生の到達目標の自己評価と成績とは概ね合致しており、特に授業への意欲が成績に反映された結果となっている。本年度は履修人数が少なかったため、教員の目が行き届き、授業内での発言や取組みまで細やかに観察し評価に組み込むことができたと感じている。
ラ	兵頭 真由美	ビジネス文書	前期の科目以外で選びました。	小テストや課題より、学生さんそれぞれの苦手なところを確認し、細かくアドバイスしながら授業をすすめました。	アンケートと最終評価によりシラバスの到達目標も達成できたと考えます。 さらに理解を深めてもらえるよう、課題、小テスト、授業の進め方など工夫してまいります。
ラ	寺石 佳世	調理学演習	1人で担当する授業がこの科目だけなので	申し訳ありません。 中間アンケートを失念しており、取り忘れました。	どの学生さんも熱心に授業に取り組んでいました。 授業で学んだことを自宅でも実践していました。 試験に代わるレポート課題(ノート)もとてもきれいにまとめられ、今後も役に立つものになっていると思われます。 ただ、1名だけ未提出の学生があり、授業を熱心に受講していたのでもったいないと感じました。 時々ですが、ノートを提出しない学生がいるので、全員提出を達成できるよう、工夫していこうと考えております。
ラ	前田 志帆子	ギフト・ビジネスラッピング 演習	2022年度後期担当はこのクラスのみです。	中間アンケートにて実技が楽しいと多くの生徒に声があつた。2つの資格取得を目指す講座で有る為、学ぶ範囲が多くもう少し知識を整理する時間が欲しいとの声も有つた。限られた時間である為、要点を整理しプリントやスライドで分かりやすく解説したが次年度更に工夫し分かりやすい授業を目指したい。	どの生徒さんも真面目に取り組み素晴らしい。概ね授業目標の達成は出来たと思う。楽しく興味を持ちやってみたいと思えるよう分かりやすく伝える工夫を継続していきたい。
ラ	鶴田 美香	パーソナルカラー	中間アンケートを実施し、尚且つ、授業として初開設であつたため。	中間アンケートでは質問しやすく楽しいとの回答が多かつたので、そのままの取り組みを続けました。 また積極的に質問を行いたいとの声にも応えるように、各机を回りながらまんべんなく声かけを行いました。	授業への積極的な参加を促す取り組みとして、ワークを多く取り入れ理解の促進を行ったことで質問が増え学習が深まりました。 自分自身の特徴や長所を理解し良さを活かすために必要な技術が身に着いたと実感できる授業評価となっている。 アパレル会社などの仕組みや仕事として求められることを伝えたことは良かった。
ラ		色彩の基礎Ⅱ	中間アンケートを実施し、また毎年の授業でもあるため生徒の声を理解するため。	授業としてはパワーポイントを実施し自分で見て理解しやすく、先生との距離も近く受けやすいとありました。 そのままを継続しました。 特に手助けなく授業ワークを進められる学生とのコミュニケーションなども忘れずに行う工夫を行いました。	基礎知識だけでなく、カラーカードにおける理論の再現なども行える知識習得へとつながっている評価アンケートでした。 日常に組み込まれている色彩のメッセージに気づき意味を理解することで意味づけが深まっている。 検定をとるところまで意識を高めていく取り組みを続けていきます。

	教職員氏名	科目名	1. この科目（クラス）を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。	2. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	3. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
ラ	田尻 良	マルチメディア演習	学校側の指示による	中間アンケートの「この授業について改善してほしい点を具体的に述べてください」に対しての回答が0件であったので、「この授業の良い点を具体的に述べてください」に回答されている内容を引き続き実施した。	実習系の授業である上、週1回90分しかない中で、1度でも欠席されると大幅な手戻りが発生してしまう。にも拘わらず、多くの学生がランダムに欠席するので、より高度な内容に踏み込むことが困難であった。もっと学生に対して欠席によるデメリットを理解してもらえるよう、伝えていこうと思う。
ラ		マルチメディア論	学校側の指示による	中間アンケートの「この授業について改善してほしい点を具体的に述べてください」に対しての回答が1件のみで、しかも「あまりあてないでください(笑)」であったので、「この授業の良い点を具体的に述べてください」に回答されている内容を引き続き実施した。	「中間アンケートで出された学生の意見、要望に対する取り組みは見られましたか」に対して、1件「そう思わない」があるが、前項と合わせて考えると、引き続き授業内で学生に発言を求め続けたことへの不満である可能性が考えられる。ただしその類推に固執せず、他の可能性も考えながら、発言の大切さを学生に伝えていきたい。 出席した授業のほとんどを寝て過ごす学生や「単位さえとれればそれでいい」と放言して憚らない学生に関して、できる限り内容が伝わるよう、より学生に身近な話題から内容に入っていくような授業に工夫していきたいと思う。
ラ	入野 遥	JAZZ	授業改善のため	体育館が寒い為、服装の指定を変更した。	それぞれ成長スピードは異なるが、体の使い方を理解して体を動かし、目標達成に近づけた。ダンスは1日で出来るようになる物ではないので、そう思うと初心者の人は目標達成したと言ってもいい。 授業は楽しんでもらえているみたいだが、出席率が少し気になつた。私には欠席している学生が体調不良なのか、別の理由なのかわからないが、朝が早いからとか、行くのが面倒だからなどの理由であれば、面倒だけが授業に行きたいと思って貰えるように、授業内容を改善していきたい。
ラ	保科 和久	社会福祉概論	これだけ担当	板書の改善	まずまず達成
ラ	白 善暎	ビジネス・医療のための韓国語	今年初めてビジネス・医療のための韓国語を担当させていただき、授業の内容や進み具合など学生のための授業ができていたのかを確認するために対象に選びました。	全員の生徒が理解できるように個別に確認をしたり、学生のレベルに合わせて時間の調節やレベルを調節しました。	授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況は達成しましたが、韓国語の文字や発音などを中心に授業を進めた結果、医療に関する内容の授業が十分にできなかつたです。前期後期通しの授業が望ましいです。前期で文字や発音をならい、後期で会話を学べます。
ラ	杉本 篤史	簿記	唯一の授業であるから	テキストを読むだけでなく問題を多く解く方が習熟度があがると考え問題演習の時間を増やした	簿記の基礎についてはおおむね理解が進んだと思うが応用になると理解度にばらつきがあった
ラ	能美 智子	医薬と検査	この授業のみ担当しているから。	中間アンケートでの改善して欲しい点で「小テストを減らしてほしい:5名」でしたが、後期試験をしないため毎回の授業での確認テストを実施し、その点数を成績評価にしているため、学生の要望をそのまま改善することは難しいと思います。とはいっても13回分の小テストは息が詰まると思いますので2回ほどテストを実施せずに別の課題作成に切り替えました。	多くの学生さんが、到達目標について満足しているようですが今後も予習・復習・小テストで知識の定着を図りたいと思います。一部の学生さんですが、休める数を計算して休んだり小テストに取り組まない学生さんがいます。そのようなケースでは到達目標に達していないと思います。暗記も必要な科目ですので、毎回の授業の積み重ねが成績評価につながることを周知していきたいと思います。

	教職員氏名	科目名	1. この科目（クラス）を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。	2. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	3. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
ラ	田端 拓哉	社会心理学	担当させていただいている授業はこの科目のみです。	配布資料の順序がわかりにくいというご指摘をいただいたため、配布資料に配布日と回を記載するようにしました。声が聞こえにくいことがある（マスク、あるいは外からの音のため？）というご指摘をいただいたため、マイクとスピーカーをご用意いただき、使用するようにいたしました。他にも1、2点について、説明を行ったという記憶がございますが、詳細は失念いたしました。	履修者数が少ないにもかかわらず、到達目標の達成には少なからぬばらつきがみられました。最終成績や期末試験の回答内容から、最も成績がよかつた学生は、とても高い到達度に達していたと考えられます。目標達成にばらつきがみられたのは、基礎学力のばらつきが反映された結果と推測します。到達度が低い学生については、専門用語の理解以前に、授業で実施された課題（授業内容を使用して小問作成）の説明内容 자체も理解できない学生が一人ならずみられました。理解や課題難易度について何をどこまで求めることができるのか、推測には限界があり、いまだ把握しきれていません。学生間のばらつきの大きさも対処を難しくする要因です。内容量や、説明に使用する言葉の難しさの調整は長らく続けておりますが、授業内のみでの対応に限界を感じております。
ラ	藤堂 隆司	診療情報管理論A	1科目のみのため	授業の進め方として、パワーポイントで大事なポイントを学生に書き込んでもらった。毎回、ミニットペーパーを配布し、重要な個所を記載させ、積極的な授業への参加を促した。しかし、中間アンケートを過ぎてから後半の授業にかけ、授業に集中できない学生や欠席する学生が多く見られ、授業中にも居眠りが目立った。そのため、定期試験ではなく毎回、小テストに切り替え、それにより成績の評価とした。それでもなおも欠席する学生もいた。診療情報（カルテ）に関する様々な基礎知識や最新の病院情報や取り組みとなるべく授業で提供できるよう心掛けてきたつもりだったが、学生に伝わらず、残念に思うと同時に大いに反省しなければならない。また、それは今回の授業アンケートの学生の回答者数（47%（15/32））にも反映されている。	【アンケート回答結果について】：15名 問1 中間アンケート結果からの改善 88%が「そう思う、やや思う」と回答している 後半の学生の授業態度からみて、改善された成果が得られているとは考え難い 問2 積極的に授業への参加について 93%が「そう思う、やや思う」と回答している 後半の学生の授業態度からみて、改善された成果が得られているとは考え難い 問3 予習、復習時間 100%1時間未満と回答した 問4 シラバスの達成度 93%が何からで「目標を到達できた」と回答した 最後の6回の小テストから、成績評価としたが、4名の学生が基準点を下回った。 【今後の課題として】 まずは、学生が授業に少しでも関心を持って受講することを期待したい（意欲のない学生は遠慮してほしい） 原則、座学なので、パワーポイントを活用して進めたいが、医師事務作業やがん登録の演習を予定しているので、なるべく学生には積極的に参加できるよう進めたい。
ラ	柳 慎之介	hiphop II	担当科目のため。	本人達にあった内容や、指導の仕方をした。	達成出来たと考えています。 今後の課題は初心者をいかに楽しみながら踊れるようにできるか。
ラ		hiphop IV	担当科目のため。	本人達にあった内容や、指導の仕方をした。	達成出来たと考えています。 今後の課題は初心者をいかに楽しみながら踊れるようにできるか。

教職員氏名	科目名	1. この科目（クラス）を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。	2. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	3. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
ラ 伴 裕果	キャリアプランニングA	講義と演習双方を取り入れた授業であり、学生と教員間の双方向性のある授業によって学習成果を上げることを目指したため、その成果と課題を振り返りたいと考えた。	授業の良い点は、わかりやすい、発言機会が多い等で、改善要望は課題量が多いこと回答があった。そこで授業中の双方向性を増やし、参加姿勢や理解度を測りながら考察と発言の機会を作り、参加意欲の醸成を図った。課題については、効果の観点から量の軽減はできないため、取り組み方の説明とフィードバック法を工夫した。また、不明点について質問、調査を行ったかについて肯定的な回答は63%であったため、授業時間内に調べる機会を増やした。これらに対し授業評価では60%の学生から改善取り組みがあつたと思うという回答を得たが、さらなる改善のために、都度学生にヒアリングを行い、意欲や理解度に応じた適切な軌道修正を課題とした。	学生の到達目標についての回答は、達成が60%で、成績は上の上位以上62%と概ね合致する。積極的な参加を促す工夫については、そう思うが80%で、成績の可の下位以上84%と概ね合致するが、下位の学生にとっては参加を成果に繋げる工夫が必要であると推察される。1週間の予習復習時間については、1時間未満が100%であり、予習復習時間の確保が成績向上に寄与する余地があると考える。本科目の目標は、自身のキャリア目標を知り、言語化・体現することであり、その達成には自身の探求と言語化を何度も反復することが必要である。今後の課題は、授業への積極的な参加による学習意欲の醸成と知識獲得、予習復習における反復学習の促進である。
ラ 伴 裕果	キャリアプランニングB	講義と演習双方を取り入れた授業であり、学生と教員間の双方向性のある授業によって学習成果を上げることを目指したため、その成果と課題を振り返りたいと考えた。	授業の良い点は、身近なエピソードや具体的な説明、対話や発言の機会等で、改善要望は課題の量と難しさであった。そのため、引き続き理解度に応じた説明と主体的な考察と発言の機会を作り、雰囲気作りと意欲向上を図った。課題については、量の軽減は効果の観点から困難であるため、取り組み方の説明とフィードバック法を工夫した。また不明点について質問、調査を行ったかでは肯定的な回答は60%のため、授業時間内に調べる機会を増やした。これらに対し授業評価では72%が改善取り組みがあつたと回答した。今後の課題は、この対策を期の当初から取り入れ、都度学生にヒアリングを行い、意欲や理解度に応じ適切な軌道修正を行うことである。	成績は良以上計65%、可21%であり、学生による到達目標への回答は、達成が85%、積極的な参加を促す工夫については、そう思うが86%でいずれも概ね合致する。なお積極的に参加する学生は成績が上位であった。については下位学生に対しては状況を注視し、参加を促す手段が必要と考える。1週間の予習復習時間については、1時間未満が86%であり、その時間の確保が成績向上に寄与すると推察する。科目的狙いは自身のキャリア目標を知り、言語化・体現することであり、その達成には自身の探求と言語化を何度も反復することが必要である。今後の課題は、積極的な授業参加による学習意欲の醸成と知識獲得、予習復習における反復学習の促進である。
ラ 伏木 真理子	ビジネス・医療のための英会話	2023年度後期の担当授業がこの科目のみなので、また学生の出席率も良いため。	前半は、シャドーイング(Shadowing)や音読の方法など教科書以外のこともやっていたが、教科書をもっと使ってほしいとの要望があったので、後半は発展的な内容は少なくして教科書に掲載の解説の内容に止め、練習問題を中心に取り組むようにした。	授業評価アンケート結果では、シラバスの到達目標をかなり達成できたが17%、少し達成できたが67%だった。しかし学生の成績は講師が期待していたよりも全体的に低かった。校舎内の施設への行き方を、実際に身体を動かしながら英語で案内するアクティビティを行ったが、これに関する英語のフレーズの定着がとても良かったので、今後更に取り入れていきたいと思う。
ラ 林 真千子	子どもの食と栄養	本科目は2クラス担当しておりどちらも授業アンケートの対象としましたが、回答率が高かったためこのクラスについて報告致します。	中間アンケートでは、図や絵などといった視聴覚教材をもう少し増やして欲しいという要望がありましたので、以後の授業では多く用いるように努めました。	学生からシラバスの達成状況についてほぼ達成できたという評価が得られましたが、定期試験の結果からは学習の理解度が思わしくない学生も見られました。 今後の課題と致しましては、授業内でもう少し反復的な振り返り演習を増やし、学生の理解度向上に努めたいと思います。
ラ	食の歴史と文化	本科目は長期間に及ぶコロナ禍におけるオンライン授業が続いた後の対面授業として、あまり回数を重ねていない科目になります。そこで、学生達がどのくらい対面授業の中で理解できているかを知るために対象と致しました。	中間アンケートでは板書の書き方について分かりやすくとの要望があり、口添えしながら学生が分かりやすい板書となるように努めました。また、カラー写真などの画像を用いて欲しいという要望があり、その後可能な限り視聴覚教材を用いた授業展開となるよう努めました。	本科目では授業内で数回小テストを行い、学生の理解度を見てまいりました。小テスト前には授業の振り返り問題も行ってきましたが、理解度の思わしくない学生が見られました。 アンケートでは学生のシラバスの到達目標達成状況が好成績となりましたが、残念ながらこのような結果となりました。 今後の課題と致しましては、学生の理解度向上に向けた授業内容の改善に努めたいと考えます。